

## 人権制度、組織および活動

20.01 2007年11月24日、*Daily Telegraph* は、次のように報道した。「反政府派がこの国の再建に尽くすすべての外国人を標的にしたため、国際援助活動家は2003年と2004年に実際に大量に引き上げた。」国際援助活動家は、ヨルダンのような隣国への移転を余儀なくされた。[48h]

20.02 USSD の2007年報告は、次のように述べている。

「政府は、一般的に安全上の問題を挙げて国内および国際人権グループの活動を制限した....。

「旧体制は独立人権組織を許可しなかったため、この国における NGO 社会はまだ比較的新しい。この年[2007年]中、NGO の活動と主張は全体として低調であった。6,000 の NGO (このうち 148 は国際組織) が登録されているが、この国における NGO の個々の会員の人数は少ない。255 の人権 NGO と 112 の女性権利 NGO が存在する。人権 NGO の大部分は政党または特定の派閥に属しており、しばしば派閥の政策に沿う人権取り組みに集中する。国際 NGO の支部および女性のために尽くす NGO は、一般的にこの種類に属さない...。

「Council of Ministers Secretariat's (COMSEC) NGO Assistance Office は、面倒な登録プロセスおよび過度の文書要求条件により引き続き NGO の活動を妨げた。多数の現地 NGO の報告によると、煩わしい報告要求条件を順守したにも関わらず、資産を恣意的に凍結させられた。

「テロリスト集団は、しばしば、人権組織を標的とした。そして治安情勢が悪いために NGO の作業は厳しく制限された。」 [2] (p16-17)

20.03 2007年8月の UNHCR 報告は、次のように述べている。

「イラクの援助活動家は他のイラク一般市民と同じく一般化された暴力の危険にさらされているが、彼らは活動することにより、たとえば、『頻発』地域で働くときまたは国内をあちこち移動するとき、より大きな危険にさらされる。さらに、国連、ICRC または人道組織のためにこれまでに働いたか、または現在働いているイラク人(またはこれらの組織と何らかの関係を持っているイラク人)

は、反政府派により、イラクの『占領』を容認かつ支援するかまたは民主主義または人権のような『西の』思想を推進する者と見なされる。」(UNHCR、2007)年 8 月 [40j] (p102)

- 20.04 UNHCR の 2007 年 8 月の適格性ガイドライン文書は、サダム・フセイン体制が描いてきたイメージのために人道主義活動家を「外国のスパイ」とする考え方の広まりを指摘した。「また、国連は、主として 1990 年以降この国に制裁を課してきた役割および MNF 軍との密接な関係のために否定的に見られる場合が多い。」[40j] (p103)

- 20.05 UNHCR の 2007 年 8 月の文書は、イラクの人道主義活動家および人権擁護者が標的にされる場合、他の要素も働くであろうことを強調した。

「... 個人の宗教、人種、または性別は、加害者から見て、特定の人物を標的にする際の付加的な基準となるであろう。継続中の派閥主義は、援助活動家が彼らの中立性および不偏不党を示すことをほとんど不可能とし、『邪悪な』派閥または種族グループに援助を提供したが故に援助活動家は危険にさらされる。

「また、国際組織のために働いているイラク人は高い俸給を受けていると思われる、したがって特に身代金目当ての誘拐の危険にさらされる。」 [40j] (p103)

- 20.06 UNHCR の 2007 年 12 月の報告もイラクの一部において人道主義者を標的とする誘拐と暗殺が行われたと述べている。 [40i] (p37)

- 20.07 2007 年 9 月 24 日の IRIN ニュースは、次のように報道した。「NGO 地域社会内の情報筋によると援助活動家およびボランティアに対する暴力の激化の結果として、少なくとも 5 つの国内非政府組織(NGO)が最近バクダートの北 390 キロの Mosul において事務所を閉鎖した...。 Mosul、Tal Afar および近傍の町における国内 NGO の登録を担当している地元の協会によると、この地域における人道主義援助は、援助作業者がこのような危険な状態でサービスを提供することを嫌がるために減少してきている。 [18ej]

- 20.08 2008 年 7 月 28 日の UNSC 報告は、次のように述べている。「2008 年前半にイラク国内・国際非政府組織の 23 プロジェクトへの Expanded Humanitarian Response Fund for Iraq による資金提供が決定され、最弱者のイラク人または紛争により最も

被害を受けた人々に緊急救済援助を提供するために最高 400,000 ドルが供与されることになった。現在までに、要請された 2,000 万ドルの 24%(480 万ドル)が寄贈された。」 [38q] (p10)

人道問題も参照。

## **KRG 地域における人権制度、組織、活動**

20.09 2007 年の USSD 報告は、次のように述べている。「1991 年以降高度の自治権が与えられているクルド人地域は、より強力な NGO 社会を構築することができた。しかしながら、多くのクルジスタンの NGO は PUK 党および KDP 党と密接な関係を持っている。KRG およびクルジスタンの政党は、一般的に NGO の活動および計画を支援した。」 [2] (p17)

20.10 2007 年 11 月 24 日、*Daily Telegraph* は次のように報道した。「ここ数週間の間にくつつかの組織がイラクにおける活動を強化すると発表した。大部分の団体は比較的安全なクルジスタン北部に本部を置いたままである ...。」 [48h]

[目次に戻る](#)

[出典リストへ](#)

## 腐敗

21.01 イラク政府は、2008年4月に腐敗の防止に関する国際連合条約を批准した。(UNSC、2008年11月6日)[2I](p8)しかしながら、腐敗は、イラクにおける重大な問題である。(USSD、2007年)[2I](p1, 4, 6) (Freedom House、2007年) 70d] (p4-5) (Freedom House、2008年)[70g] (p5) 政府、治安部隊、裁判所内における腐敗の報告がある。(USSD、2007年)[2I](p1, 4, 6) 2008年3月16日に発表されたAIの報告によると、腐敗が治安の不安と暴力と相俟って2003年の侵入以降のイラクの復興を遅らせてきた。[28o] (p1) 2008年6月25日に発表された Transparency International の報告は、イラクを180カ国中178位の最腐敗国に位置づけ、イラクにおける腐敗は、「復興プロセスを進める上での主要な障害の1つ」であると述べている。」 [51c] (p180)

21.02 2007年2月5日付のCSIS報告は、次のように述べている。

「省庁における腐敗が省庁の能力を阻害してきた。イラクの政治党派の多くは、省庁およびその関連予算を自派への権力、役職分配、資金供給の源泉と考える傾向を持っている。政党との強い結びつきを持たない省庁長官は政治党派からの強い圧力を受け、ときとして、政治的に任命され、政治的紐帯を持つ下僚をほとんど支配できない。このような腐敗が被選挙政体に対する一般社会の信用を蝕んでいる。」 [63I] (p24)

21.03 2004年1月、この国における腐敗に取り組む Commission on Public Integrity (CPI) (倫理委員会)が設置された。(USSD、2006年)[2h] (p13) (IRIN、2006年9月6日)[18ba] 2007年のUSSD報告は、次のようにCPIに対する数々の妨害を記録している。

「CPIの職員、検査職員、CPI事案に関係する証人とその家族に対する威嚇、殺人、攻撃未遂が広く行われた。CPI職員の報告によると、2004年以降、33人の職員とその家族12人が殺害された。

「CPIは、与党党員の訴追に影響を及ぼそうとする多数のハイレベルの工作を受けてきた。伝えられるところによると立法府の議員もしばしば裁判所に圧力を及ぼそうとした。2006年、CPIの前副委員長が派閥路線に沿った訴追を行ったとされて解職された。年末現在、CPI代理委員長 Moussa Faraj は腐敗の廉で中央刑事裁判所において裁判を受けているが、保釈金を支払って釈放された。

「この年の間に少なくとも7件の事例において政府当局が党の方針による文書不正行為および信用証明書の不実表示の訴追の実行を回避した疑いがある。」 [2i] (p16)

21.04 2007年8月6日に発表されたCSISの報告は、次のように述べている。「中央政府の構造は、恐ろしく非効率であり、その閣僚は、黒幕の工作、腐敗、人種的工作、派閥工作に非常に弱いので、意味のある改革は不可能である。」 [63j] (p15)

21.05 UNHCRの2007年8月の適格性ガイドライン文書は、次のように述べている。「旧イラク国軍および旧治安部隊の解体、イラクの新しい治安部隊の緩慢な訓練、高いレベルの腐敗、装備の不足により、現当局がこれまで埋めることのできなかった治安上の『欠陥』がもたらされた。」 [40j] (p25) UNHCRの2007年12月の報告もイラクの中央政府は腐敗の「高波」にさらされていると述べている。 [40i] (p22)

21.06 2008年9月17日に発表されたAIの報告は、次のように述べている。

「2003年以降にイラクに供給された莫大な量の武器と弾薬の実際の管理において、非常に重大な失敗があった……。この誤った管理とその結果の武器の横流しもイラクの広い地域における武力を用いる高度の暴力と人権侵害の悪化をもたらした。これに加えて、防衛契約に割り当てられた資金から数百万の米ドルが行方不明になったイラク MoD 内における大規模な汚職および米国政府が説明責任と監視を確保しないことにより、事態はさらに悪化されてきた。」 [28q] (p42-3)

## KRG 地域における腐敗

21.07 UNHCRの2007年8月の文書は、次のように述べている。「KDPとPUKは、縁故主義、腐敗、内部民主主義の欠如について繰り返し非難されてきた。」 [40j] (p108) クルジスタンの政党の腐敗疑惑に抗議して街頭デモが発生したことが2006年に報告された。(USSD、2006年) [2h] (p10) (RFE/RL、2006年8月9日) [22v]

[目次に戻る](#)  
[出典リストへ](#)

## 宗教の自由

- 22.01 憲法の第2条は、イスラム教が正式国教であること、およびイスラム教に反する法律を制定することはできないことを規定している。第2条(2)項は、憲法が「... 宗教的信仰の自由およびキリスト教徒、Yazidis、シバ人マンダヤ教徒のようなすべての個人の実践に対する完全な宗教的権利を保証する」と述べている。[82a] (p2)
- 22.02 国民の約97%はイスラム教徒であり、そのうち60~65%はシーア派イスラム教徒、約32~37%はスンニ派イスラム教徒である。国民のその他の3%は、キリスト教徒およびその他の宗教の信者である。(CIA World Factbook、2008年10月9日)  
[78a] (p4)
- 22.03 2008年9月19日に発表された宗教の自由に関するUSSDの2008年国際報告は、次のように述べている。「この報告期間の終わりにおいて、国民の身分証明書は依然として所持者の宗教を示している。しかし、パスポートはそうではない。」[2n] (p3) UNHCRの2007年8月の適格性ガイドライン文書は、次のように述べている。「伝えられるところによると犠牲者の名前に基づいて誘拐と法律外殺人がしばしば発生している。その結果、イラク人は、特定の地域社会に所属していると見られることを避けるために自分の名前の改名、偽造身分証明書の所持、宗教の歴史の慣習の暗記のような手段に頼っている。」[40j] (p51)
- 22.04 憲法の第41条は、次のように規定している。「イラク人は、その宗教、派閥、信条、選択に従って行う個人身分の宣明において自由であり、これは法律により規定されるものとする。」第42条は、「各人は、思想、良心、信条の自由を持つものとする」と規定している。[82a] (p12)
- 22.05 宗教の自由に関するUSSDの2008年国際報告は、次のように述べている。「2003年以降、政府は一般的に宗教団体を迫害せず、反対にすべての宗教的少数派に対する寛容と承認を呼びかけている。」政府は一般的に実際にこれらの権利を尊重したが、反政府派および民兵は多くの場合尊重しなかった。[2n] (p1)
- 22.06 UNAMIの2007年1月~3月の報告は、次のように述べている。「宗教的および人種的少数派に対する攻撃はイラクの大部分の地域において依然として衰えず、これらの地域社会の人々にこの国を脱出する方法を模索させている。依然として法と秩序を回復できないイラク政府の無能が広く行き渡っている刑事免責の風土と

相俟って、宗教的少数派を武装民兵による暴力行為の害に非常に弱くしている。」 [39g] (p13) 反政府派および犯罪集団が特定の宗教グループ、特にシーア派、クルド人、キリスト教徒の人々に対するハラスメント、威嚇、誘拐、ときとして殺人を犯したと報告されている。反政府派および犯罪集団は、宗教グループの礼拝場所も攻撃の対象とした。(宗教の自由に関する USSD の 2008 年国際報告) [2n] (p3-7) (UNHCR、2007 年 8 月) [40j] (p11) UNHCR の 2007 年 12 月の文書は、宗教グループに対する種々の狙い打ち暗殺について述べている。 [40] (p6,32,37,41,45,60) USSD の 2007 年報告は、次のように述べている。「宗教的帰属に基づく住民宛の脅迫状は、ほとんどすべての宗教宗派についてありふれている。多数の報告によると、スンニ派アラブ人、シーア派アラブ人、キリスト教徒が自分たちを異教徒と決め付け、立ち去らねば殺害するとの死の脅迫状を受け取った。これらの脅迫は、宗教的または人種的帰属に基づく大規模な国内移住に拍車をかけた。」 [2] (p13)

22.07 UNHCR の 2007 年 8 月の文書は、次のように述べている。「スンニ派の推進する暴動は、当初、米軍を対象としていた。まもなく、イラクにおけるアルカイダの関与とともに、暴動の一部は、意図的にシーア派の目標を攻撃するようになった。派閥暴力を燃え上がらせることがイラクにおけるアルカイダ戦略の中心である。」 [40j] (p48) UNAMI の 2007 年 4 月～6 月の報告は、次のように述べている。「イラクにおける少数派地域社会の状況は、4 月半ば以降、この国の大部分の地域でかなり悪化した。」 [39h] (p12)

22.08 宗教の自由に関する USSD の 2008 年国際報告は、テロリスト集団によるキリスト教徒、シリア正教徒、アッシリア正教徒の宗教指導者の誘拐および暗殺について詳述している。 [2n] (p7)

22.09 宗教の自由に関する USSD の 2008 年国際報告は、次のように述べている。「脆弱な治安状況にも関わらず、また、政府の最大関心事が暴動との闘いおよび国のインフラストラクチャの再建であるにも関わらず、政府は、この報告期間中に宗教の自由の尊重に関してある程度の前向きな措置を講じた。」 [2n] (p7)

22.10 USSD の 2007 年報告は、次のように述べている。「この年の間に宗教に基づく雇用差別の疑惑もあった。いくつかの省庁がそれぞれの長官の宗教的選択に適合する人々を雇用し、優遇したと伝えられた。」 [2] (p12)

22.11 USSD の 2007 年報告は、次のようにも述べている。「いくつかの事件において宗教指導者は殺害攻撃の対象にされた。」この報告は、いずれも 2007 年 6 月のカルデア教会の司祭およびスンニ派導師に対する銃撃について言及している。この報告は、バクダードのカルデア教会司祭および 5 人のキリスト教徒を含む身代金の支払われた宗教著名人の誘拐事件があったことにも触れている。[21] (p12)

キリスト教徒も参照。

22.12 2007 年 10 月 23 日～11 月 3 日の期間のフィンランド FFM 報告は、次のように述べている。

「Qandil [スウェーデンの NGO]によると、KRG は、宗教の自由を支持している。UNHCR によると、北部の 3 地区において宗教の実践は一般的に自由である。UNAMI および UNHCR によると、改宗は、憲法と民法のいずれにおいても犯罪ではない。Sulaymaniyah において改宗は地域の人々により歓迎されない」と UNHCR は述べたが、それが訴訟になったことは承知していない。家族と地域社会による絶縁は可能であり、個人的普及も同様である。」 [131] (p13)

## 異宗結婚

22.13 2007 年 4 月 13 日、IWPR は、次のように報告した。「スンニ派反対派は、... シーア派と異宗結婚したスンニ派を信用せず、そのスンニ派配偶者がシーア派に共鳴し、政府のために働くのではないかと疑う。このような結婚は、一般的である。国際連合報道部 IRIN によると、当局はイラクにおける 650 万の結婚のうち 200 万はスンニ派とシーア派間であると推定している。」 [12aa]

22.14 IRIN の 2006 年 11 月 8 日の報道によると、Peace for Iraqis Association (PIA) は、次のように述べた。「反対派、民兵、名指しされるかもしれないと恐れる家族からの圧力により、数百組のこのような異宗結婚夫婦が離婚を強制された...。」 [18bd]

22.15 UNHCR の 2007 年の 8 月の適格性ガイドライン文書は、次のように述べている。

「進行中の派閥間暴力はシーア派-スンニ派異宗間結婚夫婦とその子どもたちにも影響を及ぼし、差別、離婚圧力、個々の場合によっては、反対派、民兵または自身の家族による殺人さえもたらしている。イラクにおける旧体制の崩壊お

よび種々の地域社会間の暴力の段階的拡大の前においては、スンニ派とシーア派間、さらにスンニ派クルド人と両派のアラブ人間の異宗間結婚も、一般的であった。政府の推定によると、イラクの 650 万組の結婚のうち 200 万はアラブ人スンニ派とアラブ人シーア派の間の結婚である。異宗間結婚を派閥暴力から保護することを狙いとする *Union for Peace in Iraq (UPI)* と呼ばれるイラクの団体は、UPI 創設者を含む 3 組の異宗間結婚夫婦が殺害された後に、その活動の停止を余儀なくされた。特にバクダードにおいて多くの地域が派閥主義者の方針にそって『浄化』され、その他の派に属する人々にとって事実上の『立ち入り禁止』区域となったため、異宗間結婚夫婦とその子どもたちは、難を避ける多数派地域もなく、特に困難な状況に置かれている。」 [40j] (p55)

- 22.16 2008 年 3 月に発表された AI の報告は、次のように述べている。「派閥間暴力のために女性は自分自身の派内で結婚するよう強いられてきた。場合によっては、女性は、自分の夫が他の派の出身であるために、親族により離婚を強制された。」 [28o] (p17)

## 派閥間暴力

- 22.17 2007 年の USSD 報告は、次のように述べている。「Samarra の Al-Askariya Shrine の 2006 年 2 月の爆弾攻撃後に大幅に拡大したシーア派アラブ人とスンニ派アラブ人間の宗教に基づく暴力は、この年[2007 年]の後半に下火になった」 [2i] (p12) 2008 年 1 月 21 日に発表された CSIS 報告も次のように述べている。「シーア派相互およびスンニ派相互を含む人種・派閥事件は、2006 年 12 月のほぼ 1,100 件のピークから 2007 年 11 月の 100 件強まで減少した。人種・派閥暴力による死者は、2006 年 12 月のほぼ 2,200 人のピークから 2007 年 11 月の約 200 人まで減少した。」 [63g] (p23) さらに、2008 年 2 月 7 日に発表された IGC 報告によると、バクダードにおいて派閥間の闘いは 2007 年中頃までに徐々に終わりを告げた。 [25i] (p8) しかし消息筋の示唆によると、この闘いの減少は、実際には種々の地域における派閥浄化の完了を意味している。(IGC、2008 年 2 月 7 日) [25i] (p8) (Jane's、2008 年 2 月 18 日) [14c] (p1)
- 22.18 伝えられるところによると反対派は、モスクおよびスンニ派とシーア派の町およびその近傍を攻撃した。反対派は、スンニ派およびシーア派の聖職者、両派の宗教指導者と一般市民も殺害した。(宗教の自由に関する USSD の 2008 年国際報告) [2n] (p4-7)

宗教の自由も参照。

22.19 CSIS 報告は、2007年10月19日、イラクにおける派閥間暴力の主要な5つのパターンについて報告し、次のように述べた。

- 「スンニ派イスラム主義過激派—ここでは、アルカイダが少なくとも2つの他の運動組織とともに主要な役割を果たしている。彼らは、自殺攻撃、乗用車爆弾攻撃、イラク軍および連合軍に対する攻撃の主な源である。
- イラクのアラブ系スンニ派とアラブ系シーア派の抗争—ここではシーア派の民兵と暗殺団が主要な役割を果たしており、また、派閥間暴力、脅迫、圧力が多数の地域の分離を強制し、国内移住と種族『浄化』をもたらしている。
- 『人種的分割線』をめぐるイラクのアラブ人とクルド人の人種的紛争の中心—ここでは、Kirkuk およびその周辺の油田の支配権が緊張および西方に向かって Mosul 周辺の地域まで拡大する潜在的紛争の主たる源泉となってきた。トルクメン人およびその他の少数派の前途は、国の結束と同様に、その結果により直接支配される ...。
- 特にイラクの南部における政治的支配および権力をめぐるアラブ人のシーア派とシーア派の闘い。3つの主要なシーア派政党のそれぞれは、Basra のような主要な都市において主な役割を演ずる小さな政党とも競う、権力を争う敵同士である。シーア派派閥および民兵間の衝突はこれまで制限されてきたが、南東部のシーア派の聖地都市および石油を豊富に産する省の支配をめぐる闘いは始まったばかりかもしれない。
- 現在は主として Al Anbar に集中しているが、南西に向かい Diyala に広がっているアラブ人のスンニ派とスンニ派間の暴力。これは、部分的には、当該地域の部族支配をめぐる闘いであるが、イラクにおけるアルカイダのようなスンニ派イスラム主義過激派分子相互の闘いでもある。これらの闘いは ISF および連合国に対する圧力をある程度軽減するが、敵の敵は必ずしも永続する『友』ではない。」 [63f] (p4)

22.20 UNHCR の 2007 年 8 月の資料は、次のように述べている。「イラクの人種的および宗教的モザイクは、派閥間暴力、特にシーア派住民とスンニ派住民間の暴力の段階的拡大により脅威にさらされている。」 [40j] (p23) 「スンニ派の武装集団は、シーア派の支配する ISF 基地および徴兵センター、シーア派の信仰の場所および集

会(たとえば、Ashura の祭典)、宗教指導者およびシーア派の市民一般を標的とする(自殺)攻撃を行ってきた。」[40j] (p50) 「一方、シーア派民兵は主として暗殺団の形式で活動しているが、(均質的)スンニ派地域に対する一連の迫撃砲攻撃も行っている。」[40j] (p51)

「スンニ派とシーア派両方の武装集団とも、バクダードおよびこの国の他の部分における誘拐と処刑式の殺害を行っている暗殺団の使用について責任がある。死体は、通常、道路、河川、共同墓地に投げ込まれているのが発見される。ほとんどの死体は、縛られた手足、首の切断を含む拷問の跡を留めている。武装集団と民兵は、犠牲者を処刑する前に司法外裁判で裁判するとも伝えられている。The Observer の報道によると、他の地域社会に復讐し、恥辱を与えるために強姦が利用されている。」(UNHCR、2007年8月)[40j] (p51)

22.21 UNHCR の 2007 年 8 月の文書は、次のように述べている。

「進行中の暴力および派閥浄化により特に影響を受けているのは、バクダード市、Musul 市、Basrah 市、Salah Al-Din 地区、Diyala 地区(特に、Samarra、Tikrit、Balad、Dujail と Baqouba、Miqdadiyah)ならびに Babel 地区のバクダードの南のいわゆる『死の三角形』中の Yusufiyah、Latifiyah、Mahmoudiyah のような(以前に)住民が混交した地域である。派閥間暴力は、Kirkuk も飲み込んでいる …。

「イラクにおけるすべての人種グループおよび宗教グループが存在することを特徴とし、イラクの人口の 1/4 が住むバクダードが特に影響を受けている。スンニ派およびシーア派の武装グループは、Al-Doura、Hurriyah、Adhamiya、Khadimiyah、Ghazaliyah、Amiriyah、Qadissiyah のような宗教的混合地域の支配権を獲得し、『他の』グループに属する住民を追い出すことを狙っている。この暴力により、住民がそれぞれの多数派地域に移動するので、バクダードは派閥的飛び地に分割され、それぞれの多数派地域は部外者にとって事実上の立ち入り禁止区域となっている。」[40j] (p53-54)

22.22 UNHCR の 2007 年 8 月の文書に対する 2007 年 12 月の補遺は、次のように述べている。「イラク中部における暴力の低減の理由の 1 つは、以前に混交したスンニ派とシーア派地域において発生した派閥『浄化』の規模である。」[40j] (p19)

22.23 この報告は、次のようにも述べている。「[派閥的分離]は、バクダードにおいて最も明白である。米国当局者の報告によると、バクダードは2003年において65%のスニ派多数派都市であったが、現在では75~80%のシーア派多数派都市である。以前スニ派とシーア派の混合地域であった Hurriyah 地域は、シーア派のみとなった。かつてスニ派が多数を占めていた Rashid 地域は、いまでは約70%のシーア派地域となっている。バクダードでは、シーア派がすべての地域の半分以上で明確な多数派となっており、スニ派地域は、シーア派が圧倒的に優勢な地域により取り囲まれている。伝えられるところによると、バクダードは、スニ派住民が『民兵の攻撃と乗用車爆弾攻撃を防ぐコンクリート爆破壁に囲まれたスラム街』に住むようになり、ますます区分化されている。主として同市の南西に残っている混交地域では、件数は以前より減ったが、暴力が続き続けており、未確認死体が毎日発見されている。」 [40] (p19) この報告は、バクダードおよびイラク中部の他の地域における派閥殺人の減少を、駐留米軍の増強によるものとしている。 [40] (p10) 地域を安定化するために、バクダードにおける Mehdi Army 穏健派分子と闘う米軍の取り組みの強化により、バクダードでの派閥殺人の減少がもたらされたと伝えられている。 [40] (p18)

22.24 この報告は、次のように続いている。「派閥分離はバクダードの一部の地域において派閥暴力の減少をもたらしたかもしれないが、首都の他の地域および国内のほかの地域での派閥暴力は依然として高い水準にある。派閥暴力の関係者、すなわち、AQI、シーア派民兵、シーア派支配の ISF は、依然として活動している。」 [40] (p19-20)

22.25 2008年2月7日に発表された IGC 報告も、イラクの治安部隊はバクダードにおける派閥浄化の発生をほとんど防止していないと述べている。この報告は、次のように述べている。「部隊は、支配的民兵(部隊が制圧し、解散させたとされている民兵そのものである)と良好な関係を維持している地域に展開している場合が多い。」 [25i] (p6)

22.26 2008年2月18日に更新された Jane's Sentinel は、次のように述べている。

「多人種地域社会は、多くの場所において、持続した派閥殺人の移住効果により均質化し、イラクのバルカン化の可能性を高めている。特に、シーア派南部において、高レベルの暴力の持続的推進力が同一宗教および種族の政治的グループによる派閥抗争を育んでいる。最大の脅威は、多人種地域に残っている(たとえば、

バクダード、その周囲の州、クルジスタン地域政府地帯に隣接するスンニ派クルド人地域)。」 [14c] (p1)

- 22.27 2008年3月26日のBBCニュースの報道によると、Mehdi Armyを含む敵対武装グループ間のシーア派内抗争がBasraで勃発し、この暴力事件により少なくとも30人が殺害された。この抗争は、バクダードのSadr Cityにも広がり、この地域においてMehdi Armyの戦闘員がイラクの警察官および兵士に対しこの地区から立ち去るよう命令したと伝えられた。同じくこの記事によると、ここ数週間の間に米軍とイラク軍がこの民兵集団の兵隊を拘束したために、Mehdi Army休戦に緊張が生じている。[4cw]ロイター通信は、暴力を引き起こした主な武装勢力として以下を列挙した。Mehdi Army (Sadr Movement)/Supreme Islamic Iraqi Council (SIIC)(イラク・イスラム革命最高評議会)/Fadhila Party(この地域や、政府に資金を提供する責任を負うSouthern Oil Companyに対し影響を持っていると思われる小規模シーア派イスラム主義者党)/イラク治安部隊およびイギリス軍。(Reuters Factbox: イラクのBasraにおける主役たち、2008年3月25日)[7e]

[目次に戻る](#)

[出典リストへ](#)

### シーア派イスラム教徒

- 22.28 UNHCRの2007年12月の文書は、次のように述べた。2007年9月3日のイラク南部からイギリス軍の撤収以降、「特にイラク中部における米軍の急増によるMehdi Armyのイラク南部への移動に伴って、この地域において派閥間および派閥内暴力が著しく増加した。南部地区は、ますます、政治的権力と宗教的正当性、石油資源、密輸ルート、縄張りをめぐる敵対シーア民兵間の戦場と化している。2つの主役は、急進的なシーア派聖職者Muqtada Al-Sadrに忠実なMehdi ArmyとAl-Maliki首相の与党連合中の第一党であるSupreme Islamic Iraqi Council (SIIC)(イラク・イスラム革命最高評議会)と結びついているBadr Organizationである。後者は、南部の数地区における治安部隊を大部分支配している。USDoD [United States Department of Defence (米国国防省)]によると、この地方の治安部隊は、法の執行よりもMehdi Armyの影響力の封じ込めに関心を抱いている。」 [40] (p25-26)
- 22.29 この報告は、次のように続けている。「Mehdi Army戦闘員のバクダードからイラク南部、たとえばDiwaniyahへの移動は、民兵とMNF-I/ISF間の激しい衝突を数回

引き起こした。イランがシーア派民兵の訓練、武装、資金供給を強化した疑いもある。」 [40i] (p26)

- 22.30 2008年2月25日の The Independent の報道によると、少なくとも40人のシーア派巡礼が Karbala の聖堂への巡礼旅行中に殺害された。この攻撃は、イラクにおけるシーア派イスラム教徒に対する爆弾攻撃を再開した Al-Qaeda (AQI)の仕業であると思われる。 [85d] これにも関わらず、USSD の2007年テロに関する国情報告は、次のように述べている。「AQIはその戦術を転換し、主たる攻撃目標をシーア派からイラク治安部隊、CLC [concerned local citizen (関心を抱く地方市民)]グループ、部族覚醒運動隊員に移した。」 [2m] (p1)

### スンニ派イスラム教徒

- 22.31 宗教の自由に関する USSD の2008年国際報告は、次のように述べている。「スンニ派は、この国の西部、中部および北部で多数派を構成している。」 [2n] (p1) 2005年2月17日の BBC 報道は、次のように述べている。「スンニ派アラブ人は、1921年以降、イラクの政治を支配してきた。同報告は、次のように述べている。「つい最近、サダム・フセインのバース党はスンニ派イスラム教徒により支配され、サダム・フセインは彼のスンニ派氏族に権力を集中した。」 [4s]
- 22.32 BBC は、2006年2月24日の報道で次のように追加した。2006年2月22日における Samarra の al-Askariya 聖堂に対する爆弾攻撃の後、「数十のスンニ派のモスクが襲撃され、いくつかが焼き討ちされた...。」 [4ax] 宗教の自由に関する USSD の2007年国際報告は、次のように述べている。「スンニ派アラブ人地域社会は、シーア派支配政府により狙い打ちされた例として、スンニ派のモスクおよび宗教聖地に対する警察の手入りをしばしば挙げた。」 [2i] (p3)
- 22.33 宗教の自由に関する USSD の2008年国際報告は、次のように述べている。「スンニ派イスラム教徒も報告期間中の一般的差別を引き続き主張し、それは、シーア派多数派による旧体制の下で当然のこととされたスンニ派優遇とシーア派に対する虐待に復讐するために進行中のキャンペーンによるものであり、また、反乱暴動が、主として、スンニ派住民の大多数が共鳴していると思われるスンニ過激派および旧体制分子により組織されているという一般的な認識によるものと述べている。スンニ派地域社会内の一部の人々は反乱暴動を支持し、援助も行っているが、多数のスンニ派住民は反乱暴動を強く非難している。」 [2n] (p7)

## イスラム教ワハビ派

22.34 宗教の自由に関する USSD の 2008 年国際報告は、次のように述べている。「... 2001 年のある決定は、イスラム教ワハビ派を禁止している。新憲法の宗教の自由に関する規定がこの法に優先するが、それを無効にするための裁判所への申立は提起されておらず、それを廃止する法律も提案されていない。」 [2n] (p3)

## バハーイ教信仰 Baha'i faith

22.35 宗教の自由に関する USSD の 2008 年国際報告は、次のように述べている。「法律 1970 年第 105 号は、バハーイ教信仰を禁止している。」 [2n] (p3) 2006 年 7 月 1 日～8 月 31 日付の UNAMI 報告は、次のように述べている。「バハーイ信仰の信者は、引き続き身分証明書および旅行文書の発行に関して差別を受けている。」 [39c] (p13) 「新憲法の宗教の自由に関する規定は、[1970 年の法律第 105 号]に代わることができるが、この報告期間の終わりまでに、それを無効にするための裁判所への申立は提起されておらず、それを廃止する法律も提案されていない。」 (宗教の自由に関する USSD の 2008 年国際報告) [2n] (p3)

「法律 1970 年第 105 号は、イラクにおけるバハーイ教信仰を禁止しているが、これは宗教の自由に関する憲法の保証に反する。この法律およびその他の規定に基づいて、イラク政府は、バハーイに対する差別慣行を継続している。1975 年、Directorate of Civil Affairs は、出生、結婚、離婚等のようなイラク市民の身分に関するすべての情報を含む市民身分記録がもはや『バハーイ』を宗教として示すことができないことを規定した決定第 358 号を發布した。それに代わり、3 つの Abrahamic 宗教すなわちイスラム教の 1 つ、キリスト教、またはユダヤ教が示されなければならなかった。」 (UNHCR、2007 年 8 月) [40j] (p82)

22.36 2007 年の Minority Rights Group International (MRG) の広範な報告は、次のように述べている。「1975 年、規則第 358 号が成立し、バハーイ教徒の市民の自由を凍結し、バハーイ教徒に対する国民身分証明書の発行を禁止した。身分証明書を持たないバハーイ教徒は、旅行、財産の売買、学籍登録を行うことができない。規則第 105 号と第 358 号は依然有効であり、現イラク政権により引き続き施行されている。」 [121a] (p25) この報告は、さらに次のように記録している。

「バハーイ教徒は、イスラム後宗教を信ずるために *Shariah law* 法の下で『棄教者』または異端者と見なされる…。したがってイラクにおける彼らの状況はこれまで常に困難であり、ここ 30 年間に生まれたバハーイ教徒がパスポートを含む市民権文書を持たず、したがってこの国から出国できないという事実のような、これから派生する問題はいまなお顕在している。イラクにおける急進派間における宗教的熱情の高まりを考慮すると、バハーイ教徒は、サダム後の状態において、他の被差別者以上でないとしても少なくとも同様に強烈な人権侵害を被る危険に瀕している。このように長期の期間にわたり彼らが直面してきた難儀のために、バハーイ教徒がイラクにどのくらい生活しているか推定することさえほとんど不可能になっている。」 [121] (p14)

市民権および国籍も参照。

22.37 2007 年の USSD 報告は、次のように述べている。「[2007 年]4 月に MOI がバハーイ教徒と称する者に対する国民身分証明書の発行を禁止する規則を無効にした後、5 月に 4 人のバハーイ教徒に身分証明書が発行された。この正式市民権証明書を持たないために、約 1,000 人のバハーイ教徒が子どもの学籍登録、国外旅行のためのパスポート取得、市民権の証明に関して困難を経験してきた。この無効化にも関わらず、1975 年に制定された規則第 358 号によって『イスラム教徒』に変更された身分証明書を持つバハーイ教徒は、依然として、自分たちの信仰を示すように自分の身分証明書を変更できなかった。」 [21] (p12)

### イスラム教以外の宗教グループ

22.38 報道の示すところによると、イラク人は、しばしば、その宗教的身元または世俗的傾向のために民兵または反対派により標的にされた。(宗教の自由に関する USSD の 2007 年国際報告[2i] (宗教の自由に関する USSD の 2008 年国際報告) [2n] (UNHCR、2007 年 12 月) [40] (p6,32,37,41,45,60) UNHCR の 2007 年 8 月の適格性ガイドライン文書は、次のように述べている。「一般的に、イラク政府は、適用される法的枠組内で信仰し、集会し、礼拝するすべての宗教グループの権利を保護することを約束している。しかし、このような保護は、進行中の暴力および ISF の限定された能力のために厳しく制限されている。」 [40j] (p57) UNSC の報告によると、紛争領域に関する州選挙への導入の過程において、これらの地域(Ninawa、Tamin、Diyala)における少数グループの権利と安全が関心の的となった。さらに、「少数派の権利を保護するイラク憲法に反してアラブまたはクルドの身分を強制され、

自身の言語を使用することを強制されている少数グループの報告もあった。」  
(UNSC、2008年11月6日)[38r](p11)

最近の動きも参照。

- 22.39 イスラム教以外の宗教グループの信者は、厳格なイスラム法に従わないために標的にされた。(宗教の自由に関する USSD の 2008 年国際報告[2n](p5)たとえば、アルコールのようなイスラム禁制品を提供する商店が爆弾攻撃を受け、略奪され、汚された旨の報告があった。ヒジャーブを着用しないか、または『西欧風』のインターフェースを着用する女性と少女が脅迫され、攻撃され、ときとして殺害された。(USSD、2007年)[2h](p11)(宗教の自由に関する USSD の 2008 年国際報告)[2n](p5) UNHCR の 2007 年 12 月の報告は、次のように述べている。「Basra の女性は、厳しく解釈されるイスラムの規則を守らないと思われた場合、脅迫され、殴打され、ときには殺害される。衣服ときには髪型でも『西欧風』すぎると考えられた男性にも同じことが適用される。」[40i](p41-42)
- 22.40 宗教の自由に関する USSD の 2008 年国際報告は、次のように述べている。「非イスラム教徒、特にキリスト教徒と Yezidis は、その宗教的差異のためにイスラム教徒多数派により孤立化させられたと訴えた。多数の非イスラム教徒は、公民権を奪われ、社会的に無視され、適切に代表されないと訴え続けた。」[2n](p7)
- 22.41 さらに、「多数はイスラム教徒住民による差別的雇用慣行、非イスラム教徒の事業に対する攻撃、腐敗、法の支配の全体的欠如の組合せも非イスラム教徒地域社会に経済的悪影響を及ぼし、相当数の非イスラム教徒のこの国からの退去の一因となった。」(宗教の自由に関する USSD の 2008 年国際報告)[2n](p7)
- 22.42 UNHCR の 2007 年 8 月の文書は、次のように述べている。「全体的雰囲気の結果として非イスラム教少数グループは自分たちの宗教の公然と実践することを恐れている。」そして、「非イスラム教徒の少数グループの人々は、彼らの信ずる宗教のために被る公的部門における雇用差別も報告した。」[40j](p58-59)
- 22.43 USSD の 2007 年報告は、次のように述べている。「宗教団体は、政府への登録を要求されている。この要求は、少なくとも 500 人の信者を持つことを含んでいる。非イスラム教徒は、政府が法律により彼らの宗教休日を認めたにも関わらず、それが実際には無視されたと訴えている。」[2i](p12)

[目次に戻る](#)[出典リストへ](#)

## KRG 地域における非イスラム教徒

22.44 宗教の自由に関する USSD の 2008 年国際報告は、次のように述べている。

「Kurdistan Regional Government (KRG) (クルジスタン地域政府)が宗教的少数派に対する差別的行為に従事しているという主張がある。Mosul の北方に住むキリスト教徒の主張によると、KRG は彼らの所有地を補償なしに没収し、かれらの土地に定住地を設営し始めた。アッシリア人キリスト教徒の主張によると、Kurdistan Democratic Party (クルジスタン民主党)(KDP)の支配する司法が引き続き非イスラム教徒を常に差別しており、非イスラム教徒に有利な判決を実行しない。このような主張にも関わらず、多数の非イスラム教徒がこの国の中部および南部のより不安的な地域(そこではイスラムの教義の厳格な解釈に公然と従わせる圧力がより高い)から北部に逃れた。2008 年 5 月の IOM の推定によると、Ninewa Plain には 58,600 人の国内移住者が存在する。」 [2n] (p4)

キリスト教徒も参照。

22.45 USSD の 2007 年報告は、次のように述べている。

「宗教的少数派に対する KRG の差別に関する信頼できる報告にも関わらず、キリスト教、イスラム教、Yazidi、その他の宗派の多数の人々がこの国の他の部分における暴力と宗教的差別を避けるためにこの地域に逃れた。

「KRG が引き続き宗教的少数派に対する差別的行為に従事したという主張がこの年の間にあった。キリスト教徒や Yazidis のような、Mosul の北の地域に住んでいるこれらのグループの人々の主張によると、KRG がかれらの土地を侵害し、没収した土地にクルド人の定住地を不法に設営した。」 [2l] (p12)

[目次に戻る](#)[出典リストへ](#)

## キリスト教徒

22.46 Minority Rights Group (MRG)の2008年の報告は、次のように述べている。「カルデア・アッシリア人およびシリア語を話す正統派キリスト教徒の古来の地域社会から20世紀初頭にオスマン帝国からイラクに逃れたアルメニア人に至るイラクのキリスト教徒少数派は、いまや、すべて厳しい脅威にさらされている。 [121c] (p152) 宗教の自由に関するUSSDの2006年国際報告は、次のように述べている。

「カルデア人およびアッシリア人キリスト教徒は最も古いキリスト教徒地域社会の後裔であり、彼らは同様な文化的かつ言語的背景を共有している。両方の地域社会は同じ古代言語(シリア語)を話している。しかし、彼らは別々の人種グループに属すると多数の人々により考えられている。カルデア人はローマのカトリック法王の重要性を認めるが、カトリックではないアッシリア人は認めない。一部のカルデア人とアッシリア人は自らをアラブと考えるが、大多数の人々は、政府と同様に、両グループはアラブおよびクルドとは人種的に異なると考えている。」 [2f] (p2)

22.47 宗教の自由に関するUSSDの2008年国際報告は、次のように述べている。

「2003年におけるキリスト教徒の報告推定人口は、800,000から1,200,000である。現在の人口推定は、550,000から800,000である、この国のキリスト教徒の約2/3はカルデア教会(カトリック教会の東方祭式)信徒であり、約1/3はアッシリア教会(東方教会 Church of the East)の信徒であり、残りはシリア教会(東方正統教会)、アルメニア教会(ローマ・カトリックおよび東方正統教会)、英国教会、その他のプロテスタント教会の信徒である。ほとんどのアッシリア人キリスト教徒は北部に住んでおり、大部分のシリア人キリスト教徒はバクダード、Kirkuk、Ninewa州に分散している。この国のキリスト教徒住民の50%がバクダードに住み、30~40%が北部に居住しており、その最大のキリスト教徒地域社会はMosul、Erbil、Dohuk、Kirkukおよびそれらの周辺に位置している。アルメニア司教管区の大司教の報告によると、15,000~16,000のアルメニア人キリスト教徒がこの国に残っており、主としてBaghdad市、Basrah市、Kirkuk市、Mosul市に住んでいる。福音派キリスト教徒の人数は5,000ないし6,000と報告されている。彼らは、この国の北部およびバクダードに住んでいる。非常に少数であるが、Basraにも存在する。」 [2n] (p1)

- 22.48 2008年11月6日のUNSC報告は、次のように述べている。「[2007年]8月から Mosulのキリスト教徒に対する威嚇の試みが報告され始めたが、2008年10月の最初の2週間に劇的な暴力の増加があった。伝えられるところによると、2,200家族以上、10,000人以上が自分の家から逃れ、大部分が Ninawa 平原に一時的な避難場所を求めた。これを受けて、10月12日、国連の特別報告者は公式に憂慮を表明し、一般市民の殺害を強く非難した。この動きは、非常に微妙な時機に州選挙における少数派の代表問題および紛争中の国内境界の未解決の問題に関して高まった政治的緊張を背景にして発生する。」 [2n] (p1) また、IRIN ニュースの報道によると、キリスト教徒に対する暴力が2008年10月4日に Mosulにおいて再び発生し、武装集団がキリスト教徒に対する殺人と脅迫を行い、この都市から立ち去るよう告げた。(IRIN、2008年10月20日) [18cv] 「乗用車に搭載された拡声器によりキリスト教徒居住地区に脅迫放送が流された後に殺人が行われ、Musulのキリスト教徒の居住施設が爆弾攻撃された。」(UNSC、2008年11月6日) [38r] (p11) この暴力の結果として約12,000人のイラク人キリスト教徒が Mosul から逃げた。(BBC、2008年10月28日) [4di] 2008年10月30日の Development and Peace の報告によると、10月の暴力の結果として12人のキリスト教徒が殺害された。 [149a] 2008年11月6日、IRINは、次のように報道した。「10月初めに多発した脅迫と殺人のために逃れていた約400のキリスト教徒家族(ほぼ2,400人)が北部都市の Mosul の自分の家に戻った。」 [18cu]
- 22.49 IOMは、2008年11月1日の報告において、キリスト教徒の避難を引き起こした Mosul の暴力に言及して次のように述べた。「大部分の人々は Ninewa の安全な地域に向かったが、一部は Dahuk、Erbil、Kirkuk 地区に逃げた。イラク治安部隊がこの地域の安全を確保するために展開され、その後、殺人と移住は著しく減少した。」 [111k] (p2)

国内で移住させられた人々も参照。

- 22.50 これは、2007年の前回の暴力に続いて発生した。UNAMIの2007年4月～6月の報告は、次のように述べている。「Mosulにおいて教会と宗教的少数派に対する攻撃が続き、アッシリア教会の神父 Ragheed Aziz al-Kinani と3人の助祭が4人の武装暴徒により殺害された。犠牲者が6月7日に夕べの祈りを完了して Holy Ghost Church から去るときに、彼らの乗用車が武装暴徒により襲撃された。」 [39h] (p13) 2007年9月、さらに2人のシリア正教司祭が Mosul で誘拐され、その後に釈放された。(USSD、2007年) [2i] (p13) 2008年3月7日、Times は、Mosul のカルデア・カ

トリック大司祭 Paulos Faraj Rahho の誘拐を報道した。この攻撃で彼の運転手と 2 人の護衛が殺害された。[5k] 2008 年 3 月 13 日の BBC ニュースの報道によると、Mosul 付近に埋められていた大司教の死体が発見された。この記事は、次のように述べている。「カルデア教会は、イラクのキリスト教社会内の最大の教派であり、サダム・フセインの失脚以前に 800,000 人と推定されていた。継続している反乱暴動に関係している攻撃の後、多くの人々が自分の家から立ち去った。」[4cy]

22.51 UNHCR によると、2008 年 4 月現在でシリアにおけるイラク人難民の 20% はキリスト教徒である。[40e] (p4) その他の人々は、比較的安全な北部のクルド人支配地域に逃れた。(RFE/RL、2008 年 4 月 17 日)[22y] Minority Rights Group は、2008 年 3 月 6 日の発表で次のように述べている。「報道によると、3,000 のキリスト教徒家族はバクダードを去り、クルド人の地域に移動したが、他の 4,000 家族は Nineveh Plains に移動した。」[121c] (p151) MRG の報告は、さらに次のように述べている。「... キリスト教徒はイラクの全人口の 4% を構成しているが、イラクの難民 40% を構成している。」[121c] (p154)

22.52 2008 年 7 月 3 日の IRIN ニュースの報道によると、直接または間接の攻撃による 172 人の死者がイラクのキリスト教徒社会において記録され、1,752 世帯のキリスト教徒家族(約 9,000 人)が IDP として暮らしている。[18co] イラクのキリスト教徒社会の代表者によると、バクダードおよび Mosul のキリスト教徒に対する攻撃のために 2007 年後半 6 カ月の間に 44 人が殺害された(UNAMI、2007 年 7 月～12 月)[39j] (p17) 特に、バクダードの al-Dora 地区のキリスト教徒家族に対する攻撃の急増が UNAMI の 2007 年 4 月～6 月の前回報告で記録された。「教会筋によると、6 月末までにバクダード地域から立ち去ったキリスト教徒の家族数は、1,200 世帯に達した。」(UNAMI、2007 年 4 月 1 日～6 月 30 日)[39h] (p12) USSD の 2007 年報告によると、al-Dora 地区のキリスト教徒は、立ち去らねば殺すという脅迫状を受け取った。[2i] (p6) さらに

「キリスト教徒の指導者が報道記者に語ったところによると 2007 年 4 月から 5 月にかけて 500 家族が Doura 地区[バクダード]から立ち去り、また、伝えられるところによると United Nations High Commission for Refugees (UNHCR) (国際連合高等難民弁務官)は Doura から逃れた家族を少なくとも 100 世帯数えた。この報告期間における治安状況の改善のおかげで、多数のキリスト教徒家族が Doura の自宅に戻った。」(宗教の自由に関する USSD の 2008 年国際報告)[2n] (p6)

- 22.53 キリスト教徒の女性は、厳しいイスラム教の服装規定を守り、髪をベールで覆うことを要求するますます強い圧力も受けた。(RFE/RL、2008年4月17日)[22y](宗教の自由に関する USSD の 2007 年国際報告) [2i] (p4)(宗教の自由に関する USSD の 2008 年国際報告) [2n] (p5) (Minority Rights Group、2008年3月6日)[121c] (p151)
- 22.54 UNHCRの2007年8月の文書は、イラク中部および南部のキリスト教徒の状況がある程度詳しく記録し、「...預言者を怒らせているキリスト教徒および無神論者をイラクの学校、公共機関、街路から放逐するようにイラク人に呼びかけるファトゥワおよび民兵の告示」に言及している。[40j] (p62) UNHCRもつぎのように繰り返した。「...米国のイラク侵入を援助・支援したキリスト教徒は、MNFが主として西方のキリスト教異教徒国家から構成されているが故に、現在でもMNFの存在を支援しているという不変の認識と相俟って、服装と非イスラム的慣行(アルコールおよび音楽の販売、厳格なイスラム教原理に適合しない公然たる娯楽およびヘアスタイルのような)に関する過激派の激的な態度がキリスト教徒に対する暴力を煽っている。」 [40j] (p64, 65)

「Ninewa Plain と Kirkuk を含む『紛争地域』に現在分類されている地域に相当な人数のキリスト教徒が住んでいる。これらの地域は、旧体制の崩壊以降、クルド人の政党と民兵の事実上の支配下に入っており、キリスト教徒は彼らをクルド人の文化、言語、政党に同化させようとするクルド人の試みに抵抗してきた。キリスト教徒は、さらに、クルド人の政党および民兵による力の使用、差別、選挙の不正を訴えている。」 (UNHCR、2007年8月) [40j] (p65)

- 22.55 2007年11月の ACCORD/UNHCR COI 報告は、次のように述べている。「キリスト教徒は他の人々より高い教育を受けており、したがってより高い収入を得ていると一般的に考えられている。このこともキリスト教徒の危険を高めているか、あるいは彼らが標的にされる別の要因を付加しているかもしれない。」 [40m] (p24)
- 22.56 RFE/RL が 2008 年 4 月 17 日に報じたところによると、al-Sadr's 民兵、Mahdi Army がイラクのキリスト教徒に対する暴力の主な加害者の 1 つである。

「イラクのキリスト教徒社会の言い分によれば、彼らは反乱暴動によりイラク軍と米軍の目の前で大量虐殺作戦ともいべき前例のないレベルで狙い打ちにさらされている。」 [22y]

## KRG 地域におけるキリスト教徒

22.57 UNHCR の 2007 年 8 月の文書は、次のように述べている。

「北部の 3 地区、Sulaymaniyah、Erbil、Dahuk において、キリスト教徒の権利は一般的に尊重され、相当な人数のキリスト教徒がこの地域、特に Dahuk 地区(多数がここの出身である)および Erbil 市に近いキリスト教徒の町 Ainkawa に避難した。一部の報道によると、キリスト教徒の村はクルド当局により差別されており、当局は復興資金と石油収入を分配せず、農場や村々から徴発を行った。」

[40j] (p65)

22.58 UNHCR の 2007 年 8 月の文書は、また、次のように述べている。KRG におけるキリスト教徒改宗者に当局の保護は与えられない。「...一般住民はイスラム教徒のキリスト教への改宗を許容せず、したがって法律執行機関は改宗者の危険に対する介入および保護の提供を渋る」からである。 [40j] (p66)

22.59 2007 年 10 月 23 日から 11 月 3 日の期間のフィンランドの FFM 報告は、次のように述べている。

「北部の 3 地区は、その安全な状況のために、国内で移住を余儀なくされた人々、たとえばキリスト教徒にとって安全な避難所となっている。彼らが事実調査団に語ったところによると、キリスト教徒の状況は KRG 地域における普通の生活に大体近い。キリスト教徒は、北部 3 地区の地方住民により歓迎された。キリスト教徒は、穏健なイスラム教徒の隣人と良好な関係を持ち、尊敬を受けているが、過激なイスラム主義者を脅威と考えている。」 [131] (p5)

「多くのキリスト教徒は、Nineveh 地区のクルド地域の出身村に帰った。しかし、悪い治安状況のために Nineveh 地区から逃げたキリスト教徒も多数ある。Nineveh 地区に戻った人々は、彼らの旧住居が残っていることを見出したが、公共サービスは提供されていない。 [131] (p7)

- 22.60 このフィンランド FFM 報告は、次のようにも述べている。「キリスト教徒はキリスト教徒が定住した国境付近の地域にも砲撃を及ぼしている PKK 紛争について心配している。」 [131] (p8)
- 22.61 2007 年 11 月に発表された ACCORD/UNHCR COI 報告は、次のように述べている。「北部 3 地区のキリスト教徒は、比較的安全な状況で生活している。彼らは若干の差別に直面しているかもしれないが、クルド当局が北部 3 地区のキリスト教徒を迫害しているとまでは言えない。」 [40m] (p25)

### シバ人マンダヤ教徒

- 22.62 2008 年 3 月 6 日に発表された Minority Rights Group (MRG) は、次のように述べている。「マンダヤ教徒シバ人は、キリスト教布教以前にさかのぼる信仰を持つ古くからの人々である…。マンダヤ教徒の信仰は、伝道師ジョンを中心とする。」 [121c] (p152)

- 22.63 UNHCR の 2007 年 8 月の報告は、次のように述べている。

「シバ人マンダヤ教徒の伝統的中心は、イラクの南部、ユーフラテス川とチグリス川の沼沢地および下流区域にあり、Amarah 町、Nassriyah 町、Basrah 町、これらの 2 つの川の合流点の Qurnah、Qal'at Saleh、Halfayah、Suq Ash-Shuyukh を含んでいる。Baghdad、Al-Kut、Diwanayah、Fallujah、Kirkuk、Mosul を含むイラクの中部および北部に種々の規模の地域社会が存在する。シバ人マンダヤ教徒筋によると、最大の地域社会は Baghdad と Basrah に存在する」(UNHCR、2007 年 8 月) [40j] (p68)

- 22.64 2008 年の MRG 報告は、さらに次のように述べている。「現在、イラクに残っているマンダヤ教徒はわずか 5,000 人と推定され、大部分、バクダードと Basra 周辺の地域に住んでいる。

「2003 年の米国主導のイラン侵入以降、マンダヤ教徒は暴力の明確な目標になってきた。マンダヤ教徒の女性と子どもが誘拐され、強姦、割礼、物理的殴打、たき火による火傷により強制的にイスラム教に改宗させられた。地域社会は、彼らの家と事業の略奪と破壊を被った …。

「マンダヤ教徒は部族構造の保護を持たず、彼らの平和主義の結果、彼らは自衛のためでさえ暴力に訴えない。したがって彼らは、イラクにおいて最も攻撃を受けやすい地域社会である。マンダヤ教徒は、毎日、恐るべきジレンマ、改宗か、退去か、死かの選択に直面している。」 [121c] (p152)

- 22.65 BBCは、これに同意し、2008年10月19日の報道で次のように述べている。「残っている人々は5,000未満と考えられ、残りは殺害されたかまたは外国に逃げた。」 [4dh]
- 22.66 マンダヤ教徒も、迫害の恐れからイスラム教の名前を名乗っている。(STP、2006年3月) [110a] (p2)
- 22.67 UNHCRの2007年8月の報告は、次のように述べている。「多数のイラク人が身の安全を求めてクルジスタン地区に逃れたが、UNHCRの知る限りではシバ人マンダヤ教徒はこの地域に移転していない。クルジスタン地区は伝統的にシバ人マンダヤ教徒により居住されておらず、したがってクルジスタン地域へ移住したいマンダヤ教徒地域社会の人々は、そこに合法的に入り、居住するために必要な後援者を持たず、また、雇用、住宅、その他のサービスを得るために必要な地縁も欠いている。」 (UNHCR、2007年8月) [40j] (p71) MRG 2008年報告は、さらに次のように述べている。大部分のマンダヤ教徒にとって、KRGへの移住は、この地域への家族のきずなも地縁もないため、選択肢ではなかった。 [121c] (p152)
- 22.68 2007年のUSSD報告は、23人のマンダヤ教徒が誘拐された2007年3月事件について報告している。また、この報告によると、シバ人マンダヤ教徒の指導者は、彼らの地域社会がますます狙い打ちにされ、改宗と女性の被り物(ヒジャーブ)の着用を強いられていると訴えている。 [2] (p13)
- 22.69 宗教の自由に関するUSSDの2008年国際報告は、次のように述べている。「シバ人マンダヤ教徒の地域社会は、減少し続けている。シバ人マンダヤ教徒の指導者によると、前報告期間において5,000~7,000と推定されたこの国における彼らの人数は3,500ないし5,000人に減少した... 指導者は、彼らの地域社会が依然として狙い打ちされていると述べた。指導者たちは、強制改宗、シバ人マンダヤ教徒の女性によるヒジャーブ着用強制、身代金目当ての誘拐を報告した。身代金支払いは一部の犠牲者の釈放を確保したが、他の犠牲者は支払いにもかかわらず、殺害されたか、または行方不明のままであった。指導者たちは、イスラム過激派が多

数のシバ人マンダヤ教徒を脅迫したとも述べている。」 [2n] (p2, p6) さらに、「2008年2月2日、イスラム過激派から脅迫を受けた後、シバ人マンダヤ教徒家族の10人がKutのAlaza地域の自宅に対するロケット攻撃で死亡した。」 [2n] (p6)

## Yazidis

22.70 宗教の自由に関するUSSDの2006年国際報告は、次のように述べている。「Yazidiは、ゾロアスター教、マニ教、イスラム教、キリスト教、ユダヤ教、グノーシス主義の信条と伝統の要素を含むいくつかの異なる宗教的伝統を包含する古い起源を持つ宗教グループである。Yazidiは、部外者と通婚せず、また、改宗を受け入れない。」 [2f] (p2) USSDの2008年報告は、次のように述べている。「Yezidiの指導者の報告によると、この国の500,000ないし600,000のYazidiの大部分は、北部のDohukおよびMosulの付近に住んでいる。」 [2n] (p2)

22.71 Yazidiは旧体制によりアラブ人として定義されたが、しかし一部のYazidiは自分たちがクルド人であると考え、また、一部は、自分たちはイスラム教徒のクルド人とは宗教的かつ人種的に異なると考えている。(宗教の自由に関するUSSDの2006年国際報告) [2f] (p2) (UNHCR、2005年10月1日) [40d] (p6) UNHCRの2007年8月の適格性ガイドライン文書は、次のように述べている。

「彼らが人種的にクルド人であるか、または異なる人種グループを構成するの  
かについては、クルド人の間のみならず、彼らの地域社会自身の中にも議論が  
ある。大部分のYazidisは、クルド語の方言、*Kurmanji*を話している....。

「Yazidisの約10%のみがクルド人管理地域(主としてDahuk地区)に住んでおり、  
大多数はNinewa地区のいわゆる『紛争地域』、特に、旧体制のArabization作戦  
の対象にされたJebel SinjarおよびShekhanの地域に住んでいる。」 [40j] (p76)

22.72 スンニ派反政府暴徒は、Sinjar、Mosul、Tal-Afarのような町からYazidisを強制的に追い出そうとしてきた。(AFP、2006年10月13日) [21f] Yazidisは、イスラム教の服装規定および価値観を守ることを要求する運動の影響も受けている。(UNHCR、2005年10月) [40d] (p7) AFPによりインタビューされた多数のスンニ派クルド人は、Yazidiの地域社会は『不潔』だと考えているので、Yazidiとは食事を共にしないと述べた。(AFP、2006年10月13日) [21e] 2007年のMRG報告は、次のように述べている。「2003年以降、イスラム主義者グループは、yazidisが『けがれている』と

宣言し、Yazidi 地域社会の全員の殺害を呼びかけるリーフレットがイスラム過激派により Mosul に配布された。」 [121a] (p13)

22.73 UNHCR の 2007 年報告は、次のように述べている。

「Yazidis は異宗教の人とクルド人とも通婚せず、改宗も受け入れないので、Yazidi の宗教は部外者に対して閉ざされている。したがって、Yazidi の宗教の儀式の重要な部分は部外者により見られたことがなく、したがって不明である。ほとんどの Yazidi の宗教聖句はもっぱら口伝により伝承されてきたので、Yazidis が『啓典の民』と見なされることはこれまで決してなかった。むしろ、彼らをイスラムからの離脱派と考え、彼らを『背教者』とし、イスラム教の法理に従い死により処罰されるべきであると考え筋もある。」 [40j] (p76-77)

22.74 UNHCR の背景報告書も次のように述べている。

「これまで、Yazidis の状況は実質的に改善されていない…。旧宗教省の解散およびシーア派、スンニ派、キリストの地域社会に関する別の 3 局の設置以後、Yazidis はもはや代表されていない。前述したように、より厳しいイスラムの価値観の容認、一般的にもものすごい治安情勢、急進的なイスラム・グループおよび民兵の存在、種々の派閥グループで進行中のイラクの将来に関する政治権力論争により Yazidis は暴力攻撃と脅迫にさらされ、キリスト教徒、ユダヤ教徒、マンダヤ教徒の少数派と見られて暮らす伝統的方法を奪われた。」 [40d] (p7)

22.75 AFP は、2006 年 10 月 13 日付の記事次のように述べている。「50 万人の地域社会がこれらの人々を自分の土地から追い出したいスンニ過激派の不寛容と彼らの投票を吸収したいクルド人地域政府の野望の間に挟まれている。」 [21e] UNAMI の 2007 年 1 月～3 月の報告は Yazidis に対する攻撃を記録しているが、[39g] (p13-14) 宗教の自由に関する USSD の 2007 年国際報告も同様に記録して次のように述べている。

「2007 年 4 月 22 日に武装集団が Yazidi 地域社会の 20 人以上をバスから引きずり出し、イスラム教徒のクルド人男性と関係を持ったために仲間の Yazidis に石投げで虐殺された Yazidi の女性の報復として彼らを射殺したという報告があった。これらの殺人は、2006 年 4 月 20 日に暗殺された Ninewa 州議会議員 Hasan Nermo を含む前回報告期間中の 11 人の Yazidis 教徒の殺害に続く事件であった …。

「2007年2月15日、乗用車の中で既婚クルド人女性と一緒にいるところを発見された2人の Yezidi 教徒に対する仕返しだとされているが、数十人のクルド人が Nineveh 地区の Shaikhan の Yezidi 地域を攻撃し、財産と Yezidi の文化的建造物を破壊したと伝えられた。」 [2i] (p5)

22.76 UNHCR の 2007 年 12 月の文書も Yazidis に対する攻撃を列挙している。 [40i] (p73, 74)

22.77 UNHCR の 2007 年 8 月の報告は、次のように述べている。

「さらに、強制的結婚、『名誉殺人』または自己の階級または宗教外の者との結婚の禁止のような Yezidi の伝統が家族または地域社会による重大な人権侵害をもたらす。ドイツの団体 *Yezidisches Forum* によると、イスラム教徒により誘拐されたかまたは性的に暴行された Yezidi の女性は、Yezidi の宗教および地域社会からの追放とときには暴力を含む Yezidi の地域社会による厳しい処罰に直面する。ときとして、うわさがこのような制裁の十分な根拠となることがある。」 [40j] (p80)

22.78 2007年10月3日～11月3日の期間のイラクの KRG 地域へのフィンランド FFM は、次のように述べている。「失業は、特に KRG 管理地域以外において Yazidis にとって大きな問題である。」 [131] (p17)

[目次に戻る](#)

[出典リストへ](#)

## Kaka'i

22.79 宗教の自由に関する USSD の 2007 年国際報告は、次のように述べている。「ときとして Ahl-e Haqq と呼ばれる Kaka'i は、主として Diyala 州の Kirkuk、Mosul、Kankeen に住んでいる。大部分は、クルド人である。」 [2i] (p1) UNHCR の 2007 年 8 月の文書はこれについて詳述し、次のように述べている。

「Kaka'i は、主として Kirkuk (Tareeq Baghdad、Garranata、Wahid Athar、Hay Al-Wasitty、Eskan、Shorja のほか Daqoor 地域)、Mosul (Kalaki Yasin Agha 地域)、および Diyala 地区の Khanaqin (主として Mirkhas 地域と Kandizard 地域)に住んでいる別

個の宗教グループであるが、一部はイラン国境に近いクルジスタン地域の村にも居住している。Kaka'i は、Baghdad、Sulaymaniyah および Erbil のような主要都市にも住んでいる。」 [40j] (p82)

- 22.80 また、この文書によると、「大部分は人種的にクルドであるが、Macho (別名は Hawramani、Old Gurani) と呼ばれる彼ら自身の言語を話している。」

「旧体制の崩壊以降、中央政府の管理下の地域に住んでいる Kaka'i は、『異教徒』と見なす宗教的過激派による圧力にさらされた。UNHCR は、主として Kirkuk における Kaka'i に対する脅迫、誘拐、暗殺の情報を受け取った。UNHCR は、Kirkuk のイスラム教宗教指導者が人々に対し『異教徒』の Kaka'i 商店所有者から商品を買わないよう要請したとの情報を得た。また、Kaka'i は、クルド人であるために標的にされることがある。UNHCR は、Mosul において Kaka'i はもはや Kaka'i としての身元を敢えて明かすことはできないという情報を受け取った。

「旧体制の崩壊以降、大部分の Kaka'i は移住させられたと考えられている。たとえば、2006 年 11 月末の、Erbil において週に 2 回発行されている新聞、*Hewler Post* の報告によると、『テロリスト』から脅迫を受けた後、Kirkuk の中心街の Urouba 地区から 100 人の Kaka'i 信徒クルド人が逃げた。419 UNHCR は、約 250 ~300 世帯の Kaka'i 信者の家族がバクダードから Khanaqin に移住させられたという情報を受け取った。」 (UNHCR、2007 年 8 月) [40j] (p84)

## ユダヤ人

- 22.81 宗教の自由に関する USSD の 2008 年国際報告は、次のように述べている。「法律は、特にユダヤ人について、市民権を放棄した場合に再取得できないことを規定している。」 [2n] (p3)

- 22.82 USSD の 2007 年報告は、次のように述べている。「この国のユダヤ人住民は、数十年にわたる移住の結果として事実上存在しない。しかし、反ユダヤ感情は、文化的底流として残っている。たとえば、2006 年 3 月の市民権法は、中でも、移民したユダヤ人の国籍再取得を禁止している。」 [2l] (p13)

- 22.83 UNHCR の 2007 年 8 月の文書は、次のように述べている。

「旧体制の崩壊とともに、イラクの残っている数少ないユダヤ人の生活状態は急激に悪化し、大部分はこの国を去り、残っているのはほんのわずかな人々である。他の宗教的少数派よりも一層、彼らは MNF に協力しているかまたは少なくとも共感していると疑われ、イスラム教過激派および旧体制の支持者による計画的襲撃を恐れている。さらに、ユダヤ人は、依然としてイラクと戦争状態にあるイスラエルとのつながりを疑われる可能性がある。」 [40j] (p85)

- 22.84 2007年7月27日の *Time* 誌は、バクダードのキリスト教司祭によるとこの年に残っているユダヤ人は8人のみであると報道した。ユダヤ人はイラク政府からの物的援助を受ける資格がなく、イスラム教徒グループによる報復の恐れがあるためにキリスト教徒であると自称するかまたはキリスト教に改宗するよう勧められているとも伝えられる。[124b] 2008年6月1日発行のニューヨーク・タイムズの記事も、バクダードに残っているユダヤ人は7人または8人のみであると報じた。[24i]

### Shabaks

- 22.85 Shabaks もイスラム教に改宗するよう圧力を加えられた(UNAMI、2006年11月1日～12月31日) [39f] (p13)
- 22.86 UNHCR の 2007年8月の文書は、次のように述べている。

「Encyclopaedia of the Orient によると、Shabak は、『民族であるとともに宗教である。Shabaks は、イラクの Mosul 地区に居住し、文化と言語面で団結しているが、彼らは複数の人種グループから構成されており、かつ、彼らの中には複数の宗教がある。』この百科事典のさらに詳しい説明によると、Shabak の大部分は人種的にクルド人およびトルクメン人に関係しており、また、Shabak のサブグループは Gergari、Bajalan、Hariri および Mosul を含んでいる。一部の人々は Shabak をクルド人として識別するが、Shabak は彼ら自身の価値観、伝統および衣服を持っており、自分自身を別個の人種グループと考えている。」 [40j] (p56)

- 22.87 宗教の自由に関する USSD の 2008年国際報告は、次のように述べている。

「Shabak の指導者は、200,000 から 500,000 人の Shabak が存在し、主として Mosul の北に住んでいると述べた。」 [2i] (p2)

22.88 UNHCR の 2007 年 8 月の文書は、次のように述べている。「他の宗教的少数派と同様に、Shabak は、イスラム過激派からますます強い圧力を受けている。Shabak が主としてイスラム教のシーア派に追随するという事実は、彼らをスンニ派イスラム主義者の標的としている。Shabak が別の形態のイスラム教を奉ずることから、彼らをまったくの異教徒と考えるグループも存在するかもしれない。Shabak は、彼らが人種的にクルド人である(と思われる)ことに基づいて標的にされる可能性もある。」(UNHCR、2007年8月)[40j](p56) UNSC の 2008 年 11 月 6 日の報告は、2008 年 7 月の Ninawa における有名な Shabak の指導者の Mullah Abbas Khadhim の暗殺に言及し、彼の殺人に関して誰も裁かれていないと述べている。[38r](p11)

22.89 2007 年の MRG 報告は、Shabak はクルド人に疑いの目を向けていると記録し、次のように述べている。

「Dr Hunain al-Qaddo [Democratic Shabak Assembly の書記長、Iraqi Minorities Council の議長、Council of Representatives の委員]によると、2003 年以降、Shabaks は、『われわれは、われわれ自身の国の中における異邦人であると感じている。人々は、われわれが生きる資格を持っていないというような目つきでわれわれを見ている。Shabak は、日常的に抹殺され続けている ... そして、マスメディアは、この地域における深刻かつ重大な暴力を報道しない。Nineveh 州の Shabaks に対して人種的浄化が行われている。』 ...

「『[2003 年]のイラクの解放以降、クルド人民兵は Shabak 地域の支配権を掌握し、Mosul の東側をクルドの領土に併合するために人々を『クルドの Shabak』と呼ぶことによりクルド化しようとしている。クルド人は Shabaks とアッシリア人を拘留してきた。クルド人の民兵が町々と村々を徘徊し、人々を恐れさせ、Fadilia、Bashiqa、Khorsibad、Daraweesh およびその他の町の学校にクルド人の旗を掲揚している。クルド人、特にクルジスタン民主党は、最も小さな村にも党の事務所を開設した。』」 [121a](p18)

22.90 2008 年の MRG 報告はクルド人民兵による Shabaks に対するハラスメントに言及し、次のように述べている。「北部の Nineweh 地区における土地の権利を拡大するために、これらのクルド人は、Shabaks の明確な人種言語および人種グループとしての認知にも関わらず、Shabaks は実際にはクルド人であると主張している。また、シーア派である Shabak の大多数は、スンニ過激派により標的にされてきた。」 [121c](p154) 2008 年 7 月 3 日の IRIN ニュースの報道によると、2003 年～2007 年の期

間を対象とするイラク人権省の報告は、イラク北部の Ninewa の Shabak 少数派地域社会が人種地域社会の中で最高数の死亡被害を被り、そのために 529 人が死亡し、3,078 家族(約 16,000 人)が移住させられたことを発見した。 [18co]

22.91 UNAMI の 2007 年 7 月 1 日～12 月 31 日の報告は、次のように述べている。

「報告期間(2007 年 7 月 1 日～12 月 31 日)中に UNAMI は、イラクにおける Shabak 地域 Shaki の状況に関するさらなる情報(数百家族の強制移住およびアルカイダと結びついている反乱グループによるこれらの家族の人々に対する狙い打ちを含む)を受領した。Shabak 地域社会の代表者の報告によると、2007 年中に 771 家族が主として Mosul 市から Nineveh 地区の村へ移住させられ、このうち 186 件において 10 月半ばまでに殺人が発生した。代表者は、Nineveh 地区におけるクルド人当局による強制的同化の試みも報告した。」 [39I] (p17)

[目次に戻る](#)

[出典リストへ](#)

## 人種グループ

23.01 2006年5月1日～6月30日付のUNAMI報告は、次のように述べている。「イラクの人口の10%以上を占めているイラクの少数派は、引き続き彼らの正式認知、彼らの独自性に対する脅威、政治的権利およびイラクの政治に対する参加の増進への彼らの願望に関する関心を表明している。」 [39a] (p12) 「旧政府のアラブ化政策が施された Kirkuk、Ninewa、Salah Al-Din および Diyala の伝統的混交地域において人種的緊張および暴力が蔓延している。」 (UNHCR 適格性ガイドライン、2007年8月) [40j] (p86) UNHCR の 2007年12月の文書は、さらに次のように報告している。「一部の観測筋の指摘によると、Kirkuk の未解決状態をめぐる人種グループ間の緊張が別の内戦に発展し、それがクルジスタン地域に拡大して行く可能性がある。」 [40i] (p37)

23.02 Minority Rights Group International (MRG) の 2007年12月の報告は、北部におけるクルド人と少数グループ間の緊張について記録し、次のように述べている。

「すべてのイラクの一般市民と同様に、イラク北部の少数グループは、多数グループ間の派閥暴力に巻き込まれている。そして Kirkuk をめぐる政治的解決の展望が後退し続けるならば、種々の派閥または民兵による新たな人種間暴力と強制移住の脅威が高まるであろう。これが発生した場合、少数地域社会は、最も傷つきやすいグループである。」 [121a] (p18)

23.03 UNHCR の 2007年8月のガイドライン文書は、次のように述べている。「伝えられるところによると 2007年末に予定されているこれらの紛争地域の地位に関する住民投票を前にして人種間暴力が増加している。」 [40j] (p11) 一方、ICG は、2006年12月に次のように述べている。「相当な住民移住にも関わらず、イラクの人口の多くは、依然として、少なくとも最近まで労働移住、旧体制下の強制移住、人種、宗派、部族の境界を越えて広く行われた通婚により深く混交していた地域に住んでいる。これらの地域には、種々の人種および宗派間の接触地帯が残っている。」 [25e] (p4)

23.04 2007年のUSSD報告は、次のように述べている。

「この年も人種的少数派に対する差別が問題であった。クルジスタン当局がトルクメン人、アラブ人、キリスト教徒を含む北部の少数派を差別したという多

数の報告があった。これらの報告によると、当局は、一部の村に公共サービスを与えず、正当な手続なしに少数派を逮捕し、逮捕者を未開示の場所に拘留し、少数派の学校に対しクルド語で授業を行うよう圧力をかけた。Kirkukの人種および宗教的少数派は、クルジスタンの治安部隊がアラブ人とトルクメン人を狙い打ちにしたとして非難している。」 [21] (p20)

- 23.05 2008年3月に発表されたMRGの報告は、次のように述べている。「Kirkukの石油に富む町の将来の地位に関してこの年末に予定されている住民投票が近づくのにつれて、2007年の間にクルド人とアラブ人間の暴力事件が増加した。イラクの憲法は、Kirkuk州が自治クルジスタン地域に加わるか否か決定する住民投票を規定している。…」 [121c] (p153-4)

## アラブ人

- 23.06 CIA ワールド・ファクトブック(2008年10月9日最終更新)によると、アラブ人は、イラクの住民の75~80%を占め、この国のほとんどすべての部分に住んでいる。 [78a] (p4) しかし、アラブ人の派閥間紛争のために、多数のアラブ人がKRG管理地域に逃げた。(The New York Times、2006年9月2日) [24b] FCOは、2006年12月6日付の報告で次のように述べている。

「多数のアラブ人が南方の暴力から逃れるためにクルジスタン地域に移動したという事実(それにより一定の問題が生じているが)、そして彼らが一般的にクルド人により歓迎されているという事実にも関わらず、クルジスタン治安部隊は、クルド地域への過激主義およびテロの広がりを恐れて、アラブ人地域社会に対して強硬な方法を適用している。主要なクルジスタンの都市への交通は検問所/土木構造物の手段により管理され、アラブ人、とくに独身のアラブ男性に対して厳しい監視が行われている。」 [66n]

- 23.07 UNHCR の200510月の手引きは、次のように述べている。

「クルジスタン当局の『クルド人のクルジスタン』という理念はアラブ人を含まないため、KirkukおよびMosul地区のアラブ人は、重大な制約下にあり、この地区から退去するよう圧力をかけられていると伝えられている。旧体制によりイラクの他の地域からKirkukおよびMosulに移住させられた一部のアラブ人が、いまや、この地域内で強制移住させられている。一部の人々は、市町村の圧力

のために出身地に戻った。この傾向は Kirkuk 地区において特に強く、ここでは以前に移住させられたクルド人の帰還が奨励され、クルジスタン当局による支援さえ与えられている。3 北部地区における多数の治安紛争発生後、クルジスタン地域政府は、その管理下にある地域に住むアラブ人を厳しく監視している。アラブ人は、イラクの反政府グループの作業員または旧バース派ではないかという疑いの目で見られている。」 [40a] (p17-18)

23.08 2006 年 6 月 22 日付の CSIS 報告は次のように述べている。

「アラブ人シーア派は、2005 年選挙以降に強化されてきたシーア派の目標に対するスンニ派の自殺攻撃、誘拐、殺人、行方不明により ...ますます分裂の度を深めてきた。」 [63b] (p254)

23.09 2007 年 8 月の UNHCR 報告は、次のように述べている。「旧体制下でこの国をほとんど支配していたスンニ派アラブ人は、特に CPA の 2 つの広範囲の決定、すなわち非バース化命令およびイラク国軍の解体命令により自分たちが政治的および経済的に無視されていると感じている。スンニ派アラブ人は、イラクにおいて継続中の反政府活動の中心勢力となっている。」 [40j] (p37)

23.10 2008 年 3 月に発表された MRG 報告は、次のように述べている。

「[2007 年]4 月、中央政府は、サダム・フセインの下で Kirkuk に強制定住させられたスンニ派アラブ人を南方の出身地に帰す奨励策を承認した。あるイラク閣僚によると、2007 年 10 月までに、約 1,000 のスンニ派アラブ人家族が約 15,000 米ドルの支払いを受けて Kirkuk の自宅から退去することを受け入れた。」 [121c] (p153-4) クルジスタンの部隊が Kirkuk のアラブ人を標的にしているという報告もある。(IRIN ニュース、2007 年 9 月 16 日) [18ck] (MRG、2008 年 3 月)[121c] (p154) 2007 年 6 月以降、2,000 以上のアラブ人家族がクルジスタン民兵に追われて逃走した。(IRIN ニュース、2007 年 9 月 16 日) [18ck]

### マーシュ・アラブ族

23.11 マーシュ・アラブ族の大多数は、イラクの南部に住んでいる。マーシュ・アラブ族は、非常に特異なグループと思われており、しばしば、二流市民と見なされる。彼らは、教育およびその他の基本的な社会サービスにおいて差別されている。マ

ーシュ・アラブ族は、旧体制により行われた組織的マーシュ排除キャンペーンの結果として強制移住させられた。(UNHCR、2004年8月) [40b] (p7and17)

- 23.12 国際援助組織の推定によると、130,000人以上のマーシュ・アラブ族が国内で移住させられ、ほかの75,000人が難民としてイランに入国した。(IRIN、2005年8月22日) [18b] (p1) 2006年6月27日のBBCの報道によると、いくらかのマーシュ・アラブ族が帰国した。しかし、基本公共サービスを欠くこの国の最貧地域の1つに帰国した。 [4aj]
- 23.13 2006年9月のUNHCRのBasrahに関する評価は、次のように述べている。「2005年12月、IOM IDP Monitoringは、Basrah地区における16,869のIDPおよびIDP帰還家族(約101,200人)を報告した。IDP家族の大部分(ほとんどマーシュ・アラブ族)は、イラン・イラク戦争とマーシュ排除いずれかの結果として2003年以前に移住させられた……。Al-QumrahおよびAl-Medainaにマーシュ・アラブ族収容所がある。」 [40g] (p50)

## クルド人

- 23.14 BBCは、2005年8月12日に次のように報道した。「クルド人は、自分たちをサダム・フセインから守る『安全な場所』が創出された1991年の湾岸戦争終結以降イラクの北部を自ら支配してきた。1996年に敵対クルド人のグループ同士が闘ったが、クルジスタンにおける現在の安定はこの国の他の地域と著しい対照をなしている。」 [4k]
- 23.15 米国議会図書館は、2006年8月に次のように述べている。「クルド人は圧倒的にスンニ派に属するが、人種的にはアラブ人スンニ派と異なり、宗教的に過激ではない。」 [33a] (p7) 2006年12月6日のFCOの文書は、次のように述べている。「クルジスタン地域のすべての人種グループは、アラブ人を除いて、すべて自分たちがクルド人であると考えている。しかし、包括的なクルド人としての自覚の中に、特定の文化的小および宗教的独自性を持つ人種的『民族性』が存在する。したがって、人種グループをすべて挙げると次のとおりである。クルド人、アッシリア人/カルデア・アッシリア人(キリスト教徒)、トルクメン人、Yezidis(ゾロアスター教徒に近い)、アラブ人、アルメニア人。」 [66n]

23.16 2007年8月のUNHCR報告は、次のように述べている。「クルド人も、2003年の米国主導のこの国への侵入およびその後の存在に対する彼らの忠実な支持、政治プロセスへの完全関与、イラクにおける連邦制実現(多くのスンニ派アラブ人にはイラクの分裂の前触れに見える)への政治的努力、伝えられるイスラエルとの関係にかんがみて、『外国占領』の支持者と想われてきた。この結果として、クルド人の政治および軍事代表者、Kurdistan Democratic Party (KDP)(クルジスタン民主党)およびPatriotic Union of Kurdistan (PUK)(クルジスタン愛国同盟)の事務所、クルド人一般市民に対する多数の攻撃が行われてきた。」 [40j] (p12)

23.17 UNHCRの報告は、さらに次のように述べている。「トルクメン人、アラブ人、キリスト教徒、Shabak 党は、Kirkuk および Ninewa Plain の村のようなその他の混交地域におけるクルド人民兵によるこれらの地域をクルジスタンの地域に編入することを目的とするハラスメントおよび強制同化を訴えている。」 [40j] (p12)

23.18 2006年6月22日付のCSIS報告は、次のように述べている。

「PUK と KDP 間の過去および将来に考えられる緊張と不和にも関わらず、両党の指導者は、2006年1月に11の閣僚ポストを各グループに割り当てる協定に調印した。少数派の政党は、過半数を取れず、これにより将来の政治プロセスにおいてさらに役割から遠ざけられるのではないかと心配している政治派閥に残りのポストを与えるという KDP-PUK の約束を信用していない。」 [63b] (p281-282)

23.19 ブルッキングズ研究所の2006年10月の報告は、次のように述べている。

「代々これらの都市に住んでいるバクダードおよび*Basra*のクルド人は、スンニ派またはシーア派のいずれかであるために(クルド人の大多数はスンニ派であるが、Fa'ili Kurdsのようなかなり大きなクルジスタンのシーア派地域社会も存在する)両派により標的にされてきた。多数のクルド人がMosulからも逃走を強いられたが、ここでは焦点はかれらのクルド人としての身元にあるように思われる。Mosulのクルド人は大部分スンニ派であり、彼らはスンニ派過激グループにより駆逐されているからである。」 [88b] (p25)

## Faili Kurds

23.20 2007年のMRG報告は、次のように述べている。

「Faili Kurds は、宗教的にはシーア派イスラム教徒であり(クルド人は圧倒的にスンニ派である)、オスマン帝国の時代からイラクに住んでいる。彼らは、Zagroa 山脈のイラン/イラク国境沿いの土地およびバクダードに居住している....。

「バース体制の下で、彼らは、特に狙い打ちにされ、イラクの市民権を奪われた。彼らのシーア信仰が彼らを『イラン人』にしているという罪により非常に多くの人々がイランに追放された。UNHCRによると、2003年の初めに、イランに200,000人以上のイラク人難民が存在し、1,300人がAznaに住んでいたが、そのうちの65%がFaili Kurdsである。これらの人々のうち多くは20才未満であり、収容所で生まれ、ほかの家は知らない。」 [121a] (p15)

市民権および国籍も参照。

23.21 2008年のMRG報告は、次のように述べている。「シーア派のクルド人、Failiも派閥的な理由による脅迫にさらされている。」この報告は、AmirliのFailiのひいきにしていたカフェの外でトラック爆弾が爆発して105人を殺した2007年7月の事件に触れている。 [121c] (p154)

## トルクメン人

23.22 2005年10月のUNHCRの指針は、次のように述べている。

「トルクメン人の直面している問題は、主として、Kirkukおよび北部3地区における政治的状況に関連している。多くのトルクメン人は、このグループの基本的権利の確保に努めてきた『トルクメン人地域社会』として知られる組織の設立に関する理由のために、北部3地区においてクルジスタン当局により捜査および/または逮捕を被っていると訴えている。」 [40a] (p12)

23.23 2006年6月22日のCSIS報告は、次のように述べている。「KDPおよびPUKが圧倒的なクルド人の多数を構築するという明確な目的で数百人のアラブ人とトルクメン人をこの都市から組織的に誘拐し、確定クルジスタン領土の刑務所に移送したという報告がある。この活動は、Musulにも拡大していると言われる。」

[63b] (p279) 2007年のMinority Rights Group International (MRG)報告も、KirkukのIraqi

Minorities Council のトルクメン人委員の言葉と *Washington Post* の 2005 年 6 月の記事を引用して、次のように述べている。

「[*Washington Post*]の記事は、さらに、**Kirkuk** の少数派アラブ人とトルクメン人が誘拐された模様を記述している。イラク政府の文書、犠牲者とその家族の証言、米国とイラクの当局者の証言は、彼ららがイラク北部のクルド人支配地域の **Erbil** および **Suleymaniyah** の刑務所に送られたことを確認している。彼らは拷問も受けている。」 [121a] (p18)

23.24 『アラブ化』政策の撤廃と逆転を規定している憲法の第 140 条の実施に対するトルクメン人の反対が多数の筋により報告されている。トルクメン人は、それは、「トルクメン人にとって好ましくない」と述べている。(The Guardian、2006 年 10 月 27 日) [6ad] (IRIN、2006 年 11 月 16 日) [18bc] (RFE/RL、2006 年 11 月 2 日) [22u]

23.25 UNAMI の 2007 年 4 月～6 月の報告は、次のように述べている。「この報告期間中、UNAMI は、**Kirkuk** および **Mosul** における武装グループによるアッシリア人とトルクメン人に対する迫害と差別の新しい主張を受け続けた。これらの主張に応じて、**KRG** の文化相は、**KRG** 地域外に住むこれらの 2 つの地域社会のメンバーを含む **General Directorate for Assyrian and Turkoman Affairs** を再び設置した。」 [39h] (p13)

23.26 2008 年 3 月に発表された **MRG** 報告によると、**Kirkuk** に住んでいるトルクメン人は、クルジスタン軍により誘拐および拷問を含む作戦の標的にされてきた。この報告は、さらに次のように述べている。「トルクメン人は、**Kirkuk** を歴史的に自分たちのものだと考えている。**Kirkuk** および同様に紛争対象の石油の都市 **Musul** の支配権を持っているクルド人に対する反発から、トルコは、クルジスタン軍と対決するトルクメン人民兵に援助を提供してきた。土地に関する争いは別として、トルクメン人は派閥的な根拠からも標的にされており、特に女性が被害を受けやすい。」 [121c] (p154)

## アッシリア人およびカルデア人

23.27 カルデア人、アッシリア人、およびアルメニア人は、自分たちを宗教的かつ人種的に少数派であると考えている。UNHCR の 2005 年 10 月の指針文書は、次のように述べている。「アッシリア人とカルデア人は、彼らがキリスト教徒であるとい

う事実から、彼らの宗教および西側と同盟する彼らの一般的な政治的傾向の故に大部分は米国の支持者と考えられる。」 [40a] (p12)

23.28 Nenevah Plains のアッシリア人は、イスラム教に改宗するよう圧力を受けた。

「2003年より前にイラクに住んでいた150万人のアッシリア人のうち、半分はこの国を去り、残りの750,000人はZakhoおよびNorth Ninevahareの「安全な地域」に移動したと言われる。」 (UNAMI、2006年11月1日～12月31日) [39f] (p13)

キリスト教徒も参照。

## ロマ人

23.29 2007年8月のUNHCR報告は、次のように述べている。「ロマ人、またはKawliyahは、インド出身であるが、数百年来イラクに居住してきた。彼らは、彼ら自身の言語、伝統、文化を持つ別個の人種グループであるが、イラクにおいてそのようなものとして認識されたことはこれまでにない。ロマ人は、通常、受け入れ国の支配的宗教を採用するが、一方、彼らの特有の信念体系を保持する。イラクにおいて、彼らは、通常、イスラム教、スンニ派とシーア派のいずれかを信ずる。Kawliyahは遊牧生活を送ってきた民族であり、登録せず、ドキュメンテーションを持っていない。

「イラクのロマ人の人数に関する正式統計はない。旧体制の崩壊以前、バクダードに約10,000人が住んでいたと推定される。今日、Kawliyah族の指導者によると、全国的には60,000人以上であり、そのうち約11,000がQadissiyah地区に住んでいる。Dom Research Centerによると50,000人である。

「イラクにおけるKawliyahの地域社会は、種々の理由から迫害を被ってきた....。彼らは、集団的にアルコールの販売人であり、売春婦であると思われるが、両方とも、『反イスラム的』と考えられることである。さらに、『名誉殺人』の危険に瀕している女性にKawliyahが避難所を提供し、それがイラクの社会における彼らのマイナスのイメージをさらに悪化している事例があった。最後に、彼らは旧体制から特権と庇護を与えられていたと考えられており、また、日常の仕事を通じてバース主義者と関連していると思われる。」 [40j] (p93-4)

## 部族/氏族

23.30 2008年6月9日付の *Middle East Times* の記事は、次のように述べている。「イラクには100以上の部族が存在し、そのうちのいくつかの先祖は1,000年も昔にさかのぼる。近代化と都市化が部族所属を浸食してきたが、部族への忠誠はイラク社会の根底に残っている。実際、部族関係は、民族的、種族的または宗教的身分と同じように重要である。イラクにおける部族の影響力は、この国の多数の地域において宗教より重要な長期効果を持っている。数万の成員を持つイラクの部族は、血統に基づいている。彼らはイラクの各地を中心としているが、シリア、ヨルダン、レバノン、アラブ首長国連邦を含む湾岸地域にも広がっている。」 [141a]

23.31 2008年4月30日の ICG 報告は、次のように述べている。

「民族主義者のものであれ、イスラム主義者のものであれ、反政府暴動は、疑いもなく、部族の勢力盛り返しにより大幅に弱められてきた[2003年におけるサダム追放以降]。部族は、地域住民および環境に関する広い知識により、米国の軍隊が自身で行う場合よりはるかに強い支配を及ぼすことができる。その代わりに、米国との協力は、彼らがどのようなものであれ抵抗を支援することを困難にしている。 [25j] (p11)

「イラクにおけるアルカイダまたは反政府活動との対決のために亡命を強いられていた部族指導者にとって、これは、復帰のためのまたとないチャンスを提供した。それは、彼らに相当な経済的報酬を手に入れる機会（米国が彼らを通じて流した資金(主として彼らの武装ボランティアの給料)を流用することにより、あるいは彼らが復興プロジェクトからの受益を確保することにより）も提供した。」 [25j] (p12)

[目次に戻る](#)  
[出典リストへ](#)

## レスビアン、ゲイ、両性愛者、性転換者

24.01 *Guardian* は、2008年9月25日に次のよう報じた。「イラクにおける『改善された』治安状況は、すべてのイラク人を益しているわけではなく、特にゲイの人々はその恩恵を被っていない。イスラム主義者の暗殺隊が Moqtada al-Sadr のような指導的イスラム教聖職者の激励を受けて同性愛嫌悪殺人騒ぎに従事している…。国連の報告によると、Badr 組織および Mahdi 軍の暗殺隊が性的浄化の組織的キャンペーンでゲイとレスビアンを狙い打ちにしている。彼らは、彼らの成功を高らかにほこり、多くの主要都市においてすべての『性的倒錯者および男色者』をすでに絶滅したと主張している。」 [6ai]

24.02 UNHCR の 2007 年 8 月の適格性ガイドライン文書は、次のように述べている。

「イラクのレスビアン、ゲイ、両性愛者、性転換者(LGBT)の社会は、歴史的に攻撃を被ってきた。しかし、旧体制の崩壊以降、しばしば法律外的手段により強制される厳格なイスラム教価値観の高揚とともに、LGBT 社会に対する暴力が増加している。殺人は、しばしば、特に残虐な方法で行われており、焼殺および切断が報告されている。ゲイ家族による『名誉殺人』も報告されている。同性愛者およびその他に対する暴力行為をふるう者は、しばしば、刑事免責でそれを行い、伝えられるところによると警察自身が拘留中の同性愛者を恐喝し、拷問し、あるいは性的に虐待している。」 [40j] (p14)

24.03 2007年11月に ACCORD および UNHCR COI Network により発表された国情報告は、次のように述べている。「特別な性的指向を持つ人々は、ますます増大する虐待とハラスメントの危険にさらされている。伝統的社会が同性愛行為を容認しないので、彼らは旧体制の下でも確かに問題に直面していた。バース体制の崩壊以降、特別な性的指向を持つ人々は、特にシーア派民兵により直接の対象にされてきた。シーア派民兵は、同性愛者または同性愛者として非難された人々を裁く法律外裁判所を持っているとも言われている。誘拐および自分自身の家族による『名誉殺人』を含む法律外殺人の事件が報告されている。同性愛者の弱い立場が、現実には彼らをして強制売春の被害を受けやすくしかねない…。両性の同性愛者に対する魔女狩りが行われ、脅迫または殺害の脅威にさらされている。特に悲劇的なのは、家族の経済的必要性のために売春を強いられ、その結果として殺される

男性未成年者のケースである。ときとして、家族は、同性愛者の家族の成員を殺すよう強制される。」 [40m] (p92)

- 24.04 2008年3月11日の365gay.comの報告によると、Basraにあった1つを含むイラクの南部にある3つの隠れ家が2007年11月に資金不足のために閉鎖された。これらの避難所は、ロンドンを本拠とするグループ Iraqi LGBT により運用されていた。

## 法的権利

- 24.05 IRIN ニュースは、2006年2月5日、次のように述べている。「2001年以降、1990年刑法の改正により、快く同意する成人間の同性愛行為は犯罪である。アムネスティ・インターナショナルによると、この年、Revolutionary Command Council は、売春、同性愛、近親相姦、強姦を死刑により処罰する罪とする命令を發布した。これらの行為に対する死刑の突然の導入は、イスラム教保守派の支持を得たいというサダム・フセインの願望に結びついていたと思われる。この法律は、この国に対する米国主導の侵入以降変更されていない。イラクに対する米国主導の侵入より前に、快く同意する成人間の同性愛行為は、1990年刑法に対する2001年の改正により犯罪であった。2001年、Revolutionary Command Council も同性愛を犯罪とする命令を發布した。」 [18ah]
- 24.06 IWPR は、2006年10月20日に、次のように述べた。「イラクにおけるゲイの法的立場は、今日、あいまいである。ストックホルムの Södertörn 大学の調査によると、2003年12月に Interim Governing Council により承認された家族に関する新しい法律が同性愛を禁止するか否か現在まだ不明である。」さらに「...サダム時代は『黄金時代』のように思われる。同性愛が控えめに許容されていたからである。」 [11w]
- 24.07 2006年11月31日～12月31日の UNAMI の報告は、次のように述べている。「同性愛はイラク社会において許容されないが、同性愛はイラクの法律の下では保護されている。同性愛に対する攻撃および同性愛慣行の不寛容は昔から存在してきたが、ここ数年の間に激化している。」 [39f] (p26)
- 24.08 IRIN ニュースは、2006年2月5日に、次のように報道した。「新しいイラク憲法は、性、宗教、信条、意見、社会的および経済的地位を含む種々の理由に基づく差別からの保護を規定したが、同性愛には明示的に言及していない。しかし、新

しいイラク憲法の第17条は、『各人は、他人の権利または一般的道徳を犯さない限り個人のプライバシーに対する権利を持つ』と述べている」 [18ah]

- 24.09 UNHCRの2007年8月の文書は、次のように述べている。「イラクはLGBT市民に対し制度的には差別していないが、同性愛および異なる性自認は依然として厳しいタブーであり、強烈な個人的、家族的、社会的制裁を受ける。」 [40j] (p125)

## 政府の態度

- 24.10 2006年12月の報告においてFCOは、国家当局による虐待またはKRGにおける同性愛者に対する暴力の事案は関知していないと述べた。[66n] IWPRは、2006年10月に次のように報告した。「宗教的過激派が同性愛は死により処罰するべき罪であると考えているイラクにおいて...、同性愛者は...首都の街路を犠牲者を求めて徘徊する過激派イスラム教徒グループを警戒している、...しかし彼らは、彼らを保護するためにそこにいることになっている警察を信用しない。」この報告は、「シーア派が支配している内務省がシーア派民兵により浸透されていること」に同意しつつ、この報告は次のように述べている。「...ゲイの人々は、彼らを恐喝し、拷問し、性的に虐待し、彼らから盗む警察による頻繁な虐待を訴えている。」 [11w]

イラクのLGBT社会に対する標的暴力は、地位に基づく殺人、名誉殺人、誘拐、暴力による売春強要とともに、大部分処罰されることなく横行している。警察が保護することはありそうもなく、ゲイのイラク人は警察による頻繁な虐待、ハラスメント、『恐喝、拷問、性的虐待、盗み』を含む不正行為を報告している。拷問の手段としてのソドミーおよび性的残虐行為を含むイラク警察による市民および拘留者の拷問と虐待は、ありふれている。(UNHCR、2007年8月)[40j] (p127)

イラクの警察も参照。

- 24.11 2007年4月16日、IRINニュースは、次のように報じた。「ゲイの社会は、シーア派民兵、特に宗教指導者Muqtada al-Sadrにより支配されているMahdy Armyによる組織的な恐怖にさらされ続けている。イラク政府は、保護の提供を拒否している...」 [18cn]

## 社会的虐待または差別

- 24.12 シーア派イスラム教徒の指導者 Ayatollah Ali al-Sistani がそのウェブサイトにおいてイラクにおける同性愛者に対する狙い打ち攻撃の強化を煽るゲイとレスビアンの人々に対するファトゥワを発出したことは、2006年3月に広く報道された。(365Gay.com、2006年3月15日)[72b](Advocate.com、2006年3月25日)[75a](Pinknews.co.uk、2006年3月22日)[76a]イラクにおける武装グループは、ますます、同性愛者を脅迫し、誘拐し、襲撃し、殺害した。(Observer、2006年8月)[87b](365Gay.com、2006年4月11日)[72a](365Gay.com、2006年3月15日)[72b](PlanetOut、2006年3月27日)[74a](Advocate.com、2006年3月25日)[75a](Pinknews.co.uk、2006年3月22日)[76a]
- 24.13 Advocate.com の2006年3月の記事は、次のように述べている。「Badr Corps は、イラクの『性的浄化』に励んでいる...。」また、次のように述べている。「Badr Corps は Ayatollah のファトゥワ以前からゲイの人々を殺害してきたが、しかし Sistani の凶悪な同性愛嫌悪煽動はすべてのシーア派イスラム教徒に対しレスビアンとゲイの男の狩り出しと殺害へのゴーサインを出した。」 [75a]
- 24.14 2005年10月と2006年6月30日の間に、少なくとも12人の同性愛者が狙い打ち攻撃により殺されたと伝えられた。(UNAMI、2006年5月1日～6月30日)[39a](p4-5)(365Gay.com、2006年4月11日)[72a]少なくとも他の70人が誘拐で脅迫された。(365Gay.com、2006年4月11日)[72a]2007年4月16日に発表された247gay.com の記事は、次のように述べた。2005年以降、「ゲイおよびレスビアンに対する230件以上の虐待(64人の死亡を含む)」が発生した。[140a]2006年3月22日に発表された Pinknews.co.uk の記事は、イラクにおいて性転換者が火傷と殴打により殺害されたと述べている。[76a]いくつかの筋の報告によると、民兵が同性愛と思われる男の家族に対し、同性愛者の家族を引き渡すか、殺すかしなければ、家族を殺害すると言って脅迫した。(UNAMI、2006年5月1日～6月30日)[39a](p4-5)(The Independent、2006年6月20日)[85b]

「バクダード近傍の Al-Amiriya および Al-Jamia'a の住民は、過激派グループが街路でゲイをどのように殺害し、彼らの縁者も標的にしたか語った。無法! 身内のゲイの男を民兵に引き渡さなかったために家族の人々が殺害された事件の報告。サダム・フセインの治安部隊の旧隊員、Mukhtar Salah (40才)は、Al-Jamia'a の西郊の自分の家から、武装集団が若い男を殺害するのを目撃した。後に聞いたと

ころによると、この若者はアメリカ兵と性的関係を持ったとされた。」(IWPR、2006年10月) [11w]

- 24.15 IWPRの2006年10月の報告は、次のように述べている。「いわゆる宗教裁判所[シャリア裁判所]において、聖職者の監視の下、正式な当局者なしでゲイが裁かれ、死刑を宣告され、民兵により処刑される…。ゲイと強姦者は、むち打ち40回から死刑までのいずれかに処される。」 [11w]UNAMIの2006年11月1日～12月31日の報告は、次のように述べている。「HROも、聖職者の監視の下で同性愛者とされた人々が『裁かれ』、死刑を宣告され、民兵により処刑される宗教裁判所の存在について注意を喚起された。」 [39f] (p26) 「逆説的に言えば、ゲイを殺害する者は、彼らが信じているシャリアは同性愛を死により処罰するべき犯罪としてるので法の範囲内で行動していると考えている。」(IWPR、2006年10月20日) [11w]

宗教および部族の法律も参照。

- 24.16 2006年11月1日～12月31日のUNAMI報告は、次のように述べている。

「刑事免責および無法という現在の環境は、イラクにおける同性愛者の高いレベルの危険を招いている。武装イスラム教徒グループおよび民兵は、同性愛者に対し特に敵意を抱き、彼らに対する暴力的キャンペーンにしばしば公然と従事してきたことで知られている。イラクにおいて同性愛者の殺害がしばしば行われてきた。12月の第1週に少なくとも5人の同性愛男性が主な民兵隊の1つにより Shaab から誘拐されたと伝えられた。コンピュータに含まれていた彼らの個人文書および情報も没収された。誘拐された犠牲者の1人、Amjadの切断された死体が数日後に同じ地域で発見された。」 [39f] (p26)

- 24.17 UNHCRの2007年8月の文書は、次のように述べている。「受け入れ国においてUNHCRの聴取を受けたイラクのゲイの指摘によると、同性愛反対事件は実際よりはるかに少なく報告されている。被害者の家族がゲイ暴力に巻き込まれる恐れがあるためか、または殺された自分たちの家族が同性愛者であることを受け入れたくないためである。」 [40j] (p126)

- 24.18 2007年4月16日、IRINニュースは、次のように述べた。「性的浄化の犠牲者数は、毎日増えている。」この記事は、2007年の年初以降、30人以上のゲイがバク

ダードで処刑されたと続けている。バクダードを本拠とするゲイの権利 NGO の Rainbow for Life Organisation (RLO) のスポークスマンによると、「死体は、拷問、切断、ときとして強姦の形跡を残している ...」 [18cn]

- 24.19 UNHCR の 2007 年 8 月の報告は、次のように述べている。「イラクの LGBT 社会に対する狙い打ち暴力は、地位に基づく殺人、名誉殺人、誘拐、暴力による売春強要とともに、大部分処罰されることなく横行している。警察が保護することはありそうもなく、ゲイのイラク人は警察による頻繁な虐待、ハラスメント、『恐喝、拷問、性的虐待、盗み』を含む不正行為を報告している。」 [40j] (p128)
- 24.20 2007 年の USSD 報告は、次のように述べている。「4 月 [2007 年]、イラクのレスビアン、ゲイ、両性愛者、性転換者の組織によると 1 月と 3 月の間に 8 件の殺人が発生し、また、数人のゲイ活動家が逮捕された。この年の間に性的志向のために標的とされてバクダードで誘拐されたかまたは行方不明になった人々に関する報告は、タクシー運転手、洋裁師、通訳、シェフ、大学生、服装倒錯者を含んでいる。イスラム主義者暗殺隊がこの殺人に関与していると伝えられた。」 [2i] (p20)
- 24.21 2008 年 8 月 26 日の *Newsweek* の報道によると、Mahdi Army の民兵がバクダード近郊の Doura の住宅を歴訪し、同性愛者の疑いのある人々を探索した。 [148a]

### 『名誉』殺人

- 24.22 2006 年 8 月 6 日の *Observer* の報道によると、犯罪集団に売られ、同性売春を強いられた 11 才の子どもたちが民兵の標的にされた。 [87b] 2005 年 10 月の UNHCR 指針文書は、次のように述べている。「...多くの若者、特に同性愛の男性が生活費を稼ぐ手段として、しばしば自分の意志に反して、性の商売に引き入れられた ...。そして、自分たちの息子が同性愛者であることを発見した家族は(特に彼が性の商売で働いている場合、自らの選択であるか、それを強いられたかに関係なく)、家族の名誉を守るためにしばしば彼を殺すことを選ぶ。」 [40a] (p21)
- 24.23 同性愛は、クルジスタンの社会においても文化的に容認できないとされているため、こっそりと行われている。(FCO 報告、2006 年 12 月 6 日) [66n]

「人権省の報告によると、家族がゲイであると思われた場合に『名誉殺人』は一般的であり、また、バクダードを本拠とするある法律家協会は、バクダード

において過去 2 年間に発生した 15 件の同性愛に関わる『名誉殺人』を報告した。ゲイの男性に関する約 65 件の名誉殺人に関与したバクダードの顧問弁護士 Ibrahim Daud は、次のように語った。『名誉のための殺人は長年にわたり一般的であり、犯人の短い刑期も一般的である』、(UNHCR、2007 年 8 月) [40j] (p126)

- 24.24 *Observer* の 2006 年 8 月の記事も賛成し次のように述べた。「同性愛は非常に不道徳であるとされているので、ゲイである誰かを殺すことは『名誉殺人』となり、—加害者は処罰を免れることができる。イラク刑法の第 111 条は、人々がイスラム教に反して行動した場合における殺人の保護を明言している。」 [87b] それにも関わらず、「しかし、一般的な差別に関わらず、孤立した秘密のグループが同性愛男性に援助を提供するために地域的に形成されている。」 (IRIN、2006) 年 2 月 5 日 [18ah]

### KRG におけるレスビアン、ゲイ、両性愛者、性転換者

- 24.25 2007 年 10 月 23 日～11 月 3 日の期間の KRG 地域に関するフィンランド FFM は、次のように述べている。「UNHCR によると、ゲイとレスビアンは、北部 3 地区の地域社会により拒絶されている。人々は同性愛のために告発されることがあり、一部の人々は一定の期間拘留された。UNAMI は、ゲイとレスビアンの状況に関する一節を含む 2006 年末のその人権報告に言及した。」 [131] (p12)

[目次に戻る](#)  
[出典リストへ](#)

## 身体障害者

25.01 憲法の第 32 条は、次のように規定している。「国は、障害者および特別の援助を必要とする人々を保護し、これらの人々を社会に復帰させるためにリハビリテーションを保証するものとし、これは法律により規定されなければならない。」

[82a] (p10-11)

25.02 2008 年 Landmine Monitor (LM) (地雷監視)報告は、地雷の犠牲者に対する援助について言及し、次のように述べている。「イラク政府は、身体障害者の莫大な必要およびそのために利用できる役務の不足のために、身体障害者のニーズに対処することができない。多数の身体障害者は家族のネットワーク内のみで保護されており、身体障害者の 90%は、地方の最低生活線以下で暮らしている。IHSCO RE [Iraqi Health and Social Care Organization Risk Education]の評価によると、援助を受けているのはインタビューを受けた生存者のわずか 4%であった。」 [98c] (p15,14) 前年の LM 報告は、次のように述べている。

「保健省の記録によると、43,600 人の戦傷身体障害者(60%は 2003 年以前の犠牲者)と約 80,000 人の四肢切断者が存在し、これらの人々の 75 ないし 85%は地雷または UXO (不発弾)により引き起こされたと伝えられている。」 [98b] (p15,14)

25.03 2006 年の USSD 報告は、次のように述べている。

「法律は、身体障害者に対する差別を禁止している。政府は、この法律を政府部内で施行したが、民間部門では施行していない。

「MOLSA [Ministry of Labor and Social Affairs (労働・社会問題省)]は、障害を持つ青少年および成人の教育のための機関をいくつか運用している。これらの機関は、基本的な教育サービスを提供している。しかし、これらの機関は、訓練および資金の不足のために適切な教育技術を利用できなかった。

「2005 年の情報によると、バクダードおよび周辺の州に精神的障害者のために 17 の機関が運用され、約 1,000 人を収容していた。また、全国に視力障害および聴力障害を含む身体障害者のための 33 施設のほか、授産所/リハビリテーショ

ン・ホームがある。政府は数千人の復員障害者に扶助金を提供したが、これらの人々の多くはなんらかの職により扶助金を補った。」 [2] (p20)

- 25.04 2007年10月4日にICRCの報告によると、ICRCは、この国の各地において8つの義肢センター(MusulのIRCSセンターを含む)を援助し、Erbilで身体リハビリテーション・センターを運営している。ICRCは、訓練と技術的支援も提供している(たとえばBasraセンターに対して)。

「ICRCにより支援されたこれらのセンターは、2007年4月から6月にかけて4,730人の患者を治療し、600以上の人工器官および1,320の整形外科器具を製作した。」 [43e] (p2-3)

- 25.05 2008年に発表されたMedactによる報告は、次のように述べている。「学習障害のある人々は、専門家の助力をほとんど受けられなかった。」 [10b] (p10)

児童も参照。

- 25.06 2008年5月27日に発表された2007年のICRC報告は、戦闘中に身体障害になった人々のための施設について言及し、次のように述べている。「Baghdad、Basra、Erbil、Hilla、MosulおよびNajafの身体のリハビリテーション・センターは、引き続きICRCの技術的および物的支援を受けた。また、保健省の要請に基づいてTikritのセンターに対する同様な援助が始まった。イラク当局との協定の調印に続いて、Fallujaにおける身体のリハビリテーション・センターの建設が始まった。」 [43f] (p339)

[目次に戻る](#)

[出典リストへ](#)